

# 我が校のものがたり

— かけがわ学力向上ものがたり（別冊） —

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを、学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにして学力の向上を図るか、その理念や方法等をものがたりとしてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を平成26年3月に策定しました。

新学習指導要領の実施を目前に控え、これまで意識してきた「学びのユニバーサルデザインを重視した授業」、「授業の再構築」、「主体的・対話的で深い学びの授業設計」の3つの取組を継続し、子どもたちの確かな学力の向上を目指します。

各学校においては、児童生徒の学習状況に基づいた、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成しました。これを基盤とした共通理解と共通実践をとおして、全教職員が組織的な協働を図っています。

さらに、学校だけでなく、家庭力・地域力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

令和元年6月  
掛川市教育委員会

# 目 次

頁

## 【小学校】

1	日坂小学校	2
2	東山口小学校	4
3	西山口小学校	6
4	上内田小学校	8
5	城北小学校	10
6	第一小学校	12
7	第二小学校	14
8	中央小学校	16
9	曾我小学校	18
10	桜木小学校	20
11	和田岡小学校	22
12	原谷小学校	24
13	原田小学校	26
14	西郷小学校	28
15	倉真小学校	30
16	土方小学校	32
17	佐束小学校	34
18	中小学校	36
19	大坂小学校	38
20	千浜小学校	40
21	横須賀小学校	42
22	大淵小学校	44

## 【中学校】

23	栄川中学校	48
24	東中学校	50
25	西中学校	52
26	桜が丘中学校	54
27	原野谷中学校	56
28	北中学校	58
29	城東中学校	60
30	大浜中学校	62
31	大須賀中学校	64

小学校

# 掛川市立日坂小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

平成30年度の研修に対する成果と課題

○子どもたちは、課題に意欲的に取り組み、解決するために協力して話し合い、学び合う姿が見られてきた。

▲自分の考えをもたずに交流に参加し、話し合う中で学んだ気になってしまう児童が見られた。

▲小集団の中で自分の思いや考えを伝えることはできるが、全体の中で自信をもって表現する力が弱い。



### 研修テーマ

進んでかかわり 学び合う子の育成



### 研修の取組

児童の実態をふまえ、昨年度同様、子どもが主体的に考えたいくなるような課題作りを引き続き研修していく。今年度はそれに加え、本時だけでなく単元全体を見通して、付けたい力を身に付けさせるための課題設定や教師の支援・工夫などの単元構想についても研修していく。(かけがわ型スキル：②問題解決能力)

また、自分の思いや考えを表現させるためには、まず自分の考えをもたせることが大切だと考える。(かけがわ型スキル：①思考力)自分の考えをうまくもてない子どもに対しては、教師が支援をしたり、自分で「わからない。」「ここまではわかる。」と言えたりすることを大切にしたい。自分の考えをもてれば、「説明したい。」「友達の考えと比べたい。」といった交流への意欲へとつながっていくだろう。(かけがわ型スキル：④コミュニケーション力)そして、交流の質を上げていくために、教師が意図を明確にもち、交流をどこに位置づけたり、どのように支援したりするのが有効なのかを研修していきたい。





## 特色ある学力向上への取組

### 単元を見通した学習課題の設定

#### (単元構想)

- ・単元を見通して付けたい力にせまる学習課題を設定し、単元計画を構想していく。
- ・子どもの疑問やつまずきから課題を設定する。
- ・目標、学習課題、まとめまで一貫した授業を構成する。

### 交流の意図の明確化

- ・交流をどのように位置づけるか。
- ・交流中の教師の支援を工夫する。
- ・自分の考えをもたせ、伝え合う場面を設定する。
- ・個の変容を見取る。



### 外国語活動の充実

新かけがわスタンダード

- ・資料の活用(Can-Doリスト)
- ・ふりかえりを行い、児童の様子を見取る。

ALT との連携

- ・毎週 ALT と打ち合わせを行い、役割を確認する。

### 表現する力を高める各種発表会

- ・音読集会、百人一首
- ・かがやき発表会
- ・音読週間
- ・全校百人一首大会



### e ライブラリー 家庭学習

「使い方ガイド」  
「児童IDカード」

を全児童に配付し、家庭学習の充実を図っている。



## 目指す姿



こうすればどう？

ここがわからない。

自分の思いや考えをもち、友達の考えと比べながら聴いたり、わかりやすく表現したりする中で、課題を解決する姿。

あれ？なぜだろう。

やってみたい。

あれを使って解けるかな？

どっちがいいんだろう？

こういうことだよ。

# 掛川市立東山口小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

#### <成果>

- ・課題に対して、真面目に取り組むことができる。
- ・仲間と自然に関わったり、より考えを深めようと話し合ったりするなど、目指す学び合いの姿に近づいてきた。
- ・よりよい話し方や聴き方を意識して授業に取り組める子どもが増えた。

#### <課題>

- ・自ら学びを求め、さらに深い考えを追究する主体的な学びの姿はまだ不十分である。
- ・「自分たちで授業をつくっていく」という意識が十分に育っていない。

### 研修テーマ

進んでかかわり、学び合う子



### 研修の取組

研究の柱を「教科の見方・考え方を働かせて学び合う授業づくり」とし、「算数」を窓口教科として、全職員で取り組む。

(1) 授業のゴールを見直し、そのゴールに向かうにはどのような課題を設定すればよいか吟味する。

- ①子どもにとって必要感や学びたくなるような課題の設定。
- ②キー概念で貫かれた単元構想。
- ③子どもの思考の流れを予想する。

(2) 考えを広げたり深めたりするために学び合いを充実させる。

- ①交流も含め、全ての活動に目的や意図をはっきりさせる。
- ②個の考えをもつ時間を確保する。
- ③根拠となる理由を、図や式などに関連づけて説明できるよう、表現の仕方を身に付けさせる。
- ④個の学びを把握し、学び合いにつなげる。



## 特色ある学力向上への取組

### 見せ合い授業

- ・「一人一人がかがやく授業づくり –自分で考える みんながわかる みんなで深める–」を授業づくりのテーマとして全校に提示した。
- ・他の学年のよいところを取り入れ、よりよい授業をめざすために、ステージに1回、1つ上の学年の授業を見る機会を設定している。参観の際には、視点をもって参観するようにしている。「輝きカード」を用いて、子どもたちに目指す姿をフィードバックしている。

### 外国語活動

- ・新かけがわスタンダードで示されたCan-Doリストで、単元の目標を確認して授業を行う。
- ・子どもたちにとって魅力的な必要感のあるGoal Activityを設定する。
- ・デジタル教材を活用して、言語材料の意味を子どもたちに推測させながらインプットを図るようにする。

### 読書指導

- ・毎朝10分間の読書から1日をスタートしている。多くの本に親しみ、進んで読書しようとする態度を育てるために、週1日、図書館で読書をする日を設定した。また、学年に応じた目標冊数や必読図書を設定した。
- ・月2回程度、ボランティアによる読み聞かせやペア読み聞かせ、年2回の親子読書を行っている。

### 家庭学習の充実

- ・栄川学園共通の「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣づくりを行っている。
- ・家庭学習の仕方を保護者と共通理解し、家庭と学校がタッグを組んで子どもの学力を支えるようにしている。
- ・eライブラリーを活用し、子どもが自ら学ぶ力を育むようにする。

## 目指す姿



- (1) 課題に主体的に取り組み、表現する姿。
- (2) 考えを比べながら聴き、仲間と協力して解決する姿。
- (3) 根拠を持って思考する姿。



# 掛川市立西山口小学校



## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

平成 30 年度は、「やってみよう！学習問題の設定」と「きく活動を取り入れた学び合いの場の設定」に焦点を当て研修を進めた。教師が学習問題を精選し提示することで、子どもたちが、授業で何を学ぶのか見通しをもつことができ、意欲的に学ぼうとする姿が様々な場面で見られた。また、教師が、ねらいを明確にしてきき合う場を設定することで、子どもたちから動き出し、話合いに発展していく姿も見られるようになってきた。一方で、自分の考えを伝え、相手の考えを知ること満足してしまい、きき合いの中で、考えをつなぎ深めていくことに課題を残した。



### 研修テーマ

「考えをつなぐ授業」



### 研修の取組

「やってみよう！」と感じる 学習問題の設定	教師がつなぐ・もどす
学習課題から生じた子どもの疑問や発見から学習問題を設定する。子どもが本当に解決したい、考えたい学習問題を設定することで、主体的に問題解決に取り組み、解決のためのきき合いができるようにする。	教師が出る場面を明確にし、子どもと子どもが考えをつなぐことができるようにする。 子どもの思考を深めるために、教師が「つなぐ・もどす」ことを意識して行う。 (個⇔全体、小集団⇔小集団、小集団⇔全体)
<b>主体的な学びを支える学級作り</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級で授業像を設定し、自分たちが目指す授業を共有・具現化していく過程を大事にする。</li> <li>子どもたちが「みんなで授業をつくっていく」という意識をもって授業に参加できるようにする。</li> <li>子どもたちが授業を見合うことで、自分たちの授業を振り返ることができるようにする。</li> </ul>	

### メンターチーム研修

メンターチームを組織し、メンター（教職経験5～10年の教員）が、メンティー（経験の浅い教員）の仕事や諸活動を支援していく。メンティー同士が、気軽に悩みや困っていることを話し合い、同じような課題を共有することで、自分たちなりの解決の方法を考え、自己解決力を身に付けていけるようにする。また、ベテランの先生を講師に招くなど、メンターチームで研修を企画・実践していく。



## 特色ある学力向上への取組



### 外国語活動

西山口小の3goodを大切にしています

- ① Good Smile (えがお)
- ② Good Voice (大きな声)
- ③ Good Reaction (身ぶり・手ぶり)



「ふりかえりカード」を使用し、3つの項目ができたかどうか確認をし、子どもたちが意識して取り組めるようにしています。

### Story time の導入

絵本を購入し、読み聞かせを推進しています。

外国語教材を学年の単元ごとに揃えています。ALT・学年間の打ち合わせを大切にしています。



### 情報教育

- ・各教科、道徳、特別活動等において、ICT 機器(タブレット)を活用した授業を行います。
- ・調べ学習の「テーマを決める→広く調べる→深く調べる→まとめる」の過程で、コンピューターを活用していきます。
- ・コンピュータースキル学年別指導表を活用し、ICT 機器を正しく使ったり、情報モラルについて考えたりする授業を行います。

### 読書指導

#### 読書活動の充実

- ・朝活動での読書
- ・年間 100 冊を目標に、読書の記録をカードに記入
- ・毎月家庭での親子読書

#### 図書ボランティアの協力

- ・朝活動での読み聞かせ
- ・全校読み聞かせ
- ・本の受け入れ、装備
- ・掲示や図書の整理

### 家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え「家読」「親子読書」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、子どもたちの

学習・生活面の基礎基本の力を支えています。また、3・4年生を対象に、講師を招いたeライブラリーの使い方講座を行い、家庭学習の充実を図っています。



## 目指す姿



#### 「聞いてもらいたい発言」

「どうすれば伝わるかな？」  
「わかりやすく言おう」  
「似ていて」「つまり」  
「ここまででは分かるんだけど」



#### 「分かろうとして聴く・訊く」

「どうして?」「なんで?」  
「何を伝えたいのかな?」  
「そういうことか!」  
「わかった!」「すごい!」



「つなく」  
子どもと子ども

自然な反応  
自然なきき合い



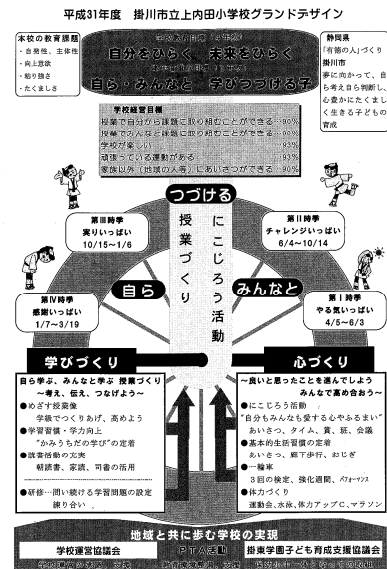
# 掛川市立上内田小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 指示されたことや与えられた課題に対して真面目に一生懸命取り組むことができる。
- 問題に対し、「やってみよう!」「なぜ?」という思いをもつ意欲が高まってきている。

- △自ら行動しよう、発言しようとする意欲が弱い。
- △自分の考えをもっていても全体の場で伝えられることができるのは一部でみんなと関わりながら授業を創っていきようとする意識が低い。



### 研修テーマ

自ら学ぶ みんなと学ぶ授業づくり

～考え、伝え、つなげよう～

### 研修の取組

#### 子どもを主人公にした授業展開

#### 1 めざす授業像を設定

- (1) みんながつながる授業を創るために、「自ら」「みんなと」の2つを柱として、各クラスでめあてを話し合うことで、教師も児童も重点目標をより意識する。

#### 2 具体的な手立て(窓口教科:算数)

- (1) 解決したい課題や問い(自ら学ぶための主な手立て)

準備テストの実施、学習の見通しをもたせる、問い続ける学習問題の設定  
かけがわ型スキル「思考力、問題解決力、意思決定力」との関連

- (2) 考えるための材料

過去の学びをつなげる、ワークシートの工夫、板書の構造化、教具や教材の工夫

- (3) 対話と思考(みんなと学ぶ場の設定)

練り合い(つなげる言葉)、ICTの活用、ホワイトボードの活用、学習形態の工夫  
かけがわ型スキル「コミュニケーション力、情報の選択・活用力」との関連

- (4) 学習の成果(学びつづける子を目指す)

学びを確かめる活動、新たな課題や問いの発見につながるまとめやふり返り



## 特色ある学力向上への取組

### 外国語教育の充実

- ・ E - A L Tとの打ち合わせの時間の確保、新かけがわスタンダードの活用
- ・ 振り返りの合言葉を全学年で統一、3つの観点を子どもと共有



### 家庭学習の充実

- ・ 家庭学習の手引きを配付し、学習習慣づくり
- ・ 掛東学園による、毎月15日わんわん運動（ノーメディア）の実施
- ・ 家庭でのeライブラリー活用、校内での使い方指導。

### サマースクールの実施

- ・ 卒業生の掛東中生や教師による夏休み中の補習学習
- ・ 先輩に教わることで学習意欲向上



### 朝活動の作文タイム

- ・ 「条件に合った文を短時間で」を目標にして書くことに慣れる
- 〈1、2年生〉  
作文の基礎、書き方
- 〈3年生以上〉  
朝日小学生新聞のコラム欄を活用  
中学年・・・テーマに迫った感想  
高学年・・・中学年の内容に加えて、  
要旨の読み取り

### 全職員で授業を見合う場の設定

- ・ 管理職も含め、全職員が授業を公開して、授業力向上に努める。
- ・ 年3回、授業を見る週間を設定する。6月は学級経営の充実、11月は授業の充実、1月は次学年に向けた充実をねらいとしている。特に1月は1つ上の学年の様子を児童が参観することで、次年度に向けての準備をする。

## 目指す姿

- ・ 自ら思考、判断し、表現する子
- ・ 児童同士、みんなと高め合い続ける子
- ・ 学習に関心をもち、学び続ける子
- ・ 確かな学力が身に付いている子
- ・ 本を読むことが好きな子

# 掛川市立城北小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 平成27～30年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国語・算数ともに県や全国平均を上回っている。(30年度は、A問題のみ。)
- 課題に対して、真面目に取り組む姿が多く見られる。
- ペアやグループの形態での学習に慣れている。
- ▲自分の考えを進んで表現したり、友達の発言から自分の考えを深めようとしたりする力が十分ではない。
- ▲意見のはき出しが主になってしまい、話合いの深まりに欠ける面が見られる。

### 研修テーマ

学び合う授業づくり サブテーマ『確かな学力』の育成

### 研修の取組

- ・授業課程の再構築を意識して、授業に取り組む

#### 授業過程の再構築

##### 視点① 付きたい力・ねらいを明確にした授業『押さえる』

- ・学習指導要領や授業づくり指針が示す付きたい力に沿った本時の目標となっているか。
- ・本時の目標を達成するための学習問題となっているか。
- ・他学年、他教科との関連事項、既習事項などを踏まえて導入部分を工夫できているか。

##### 視点② 主体的・対話的に学び合う中で自己の考えを深める「学び合い」の実現『仕掛ける』

- ・子どもが主体的に考えをもつための工夫ができているか。(ワークシート、教具の工夫、既習事項の確認等)
- ・子ども同士で考えを深めるための対話の場の設定ができているか。(ペアやグループの話合い等)
- ・子ども同士で考えを深めるための対話の手段、方法が示されているか。(話合いのルール等)

##### 視点③ 子どもが学びを実感できるふり返りの場の設定『確かめる』

- ・「まとめ」や「ふり返り」の時間の確保ができたか。

※「まとめ」・・・本時の学びの確認(一斉)

- ・視点②に焦点を当て、手立てを講じていく

学び合いに十分達しなかった理由として主に2つのことが挙げられた。1つ目は、子どもが考えたいと思う学習問題を設定できなかったことである。2つ目は、全体の話合いでの教師の働き掛けや進め方である。そこで、本年度は、「子どもが考えたい学習問題の設定」、「全体で話し合う場面での教師の働き掛けや進め方」において、手立てを講じて授業をしていく。授業を見合い、その手立ての有効性について話し合う中で研修を深めていく。



## 特色ある学力向上への取組

### 言語活動の充実

- 金じろうタイム…書くことに慣れ、表現する力を付ける活動
- スピーチタイム…話すことに慣れ、わかりやすく伝えたり、表現したりする力をつける活動

### 家庭（地域）への発信と連携

- 家庭への発信…各種たより・e じゃん掛川
- 家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」
- 学校生活の約束…「城北小学校生活の約束」
- e ライブラリアドバンスの活用
- あいさつ活動の充実
- 冀北学園「地域コーディネーター」との連携

### 道徳教育の充実

- 「かけがわ道徳」の実践の充実  
（「なるほどなっとく金次郎さん」「この人に学びたいー掛川の偉人ものがたりー」の活用）
- 道徳コーナーの設置・ふり返し

### 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 授業で基礎・基本の定着を丁寧に行う
- 「つけたい力」を明確にした授業
- 本校独自の「チャレンジテスト」による基礎・基本の徹底した定着
- 宿題の質・量の向上や家庭学習充実のための家庭への働きかけ
- ICTを活用した外国語活動
- 児童の実態に合わせた Can-Do リストの作成

### ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり

- じょうほう型スタンダード「授業づくり」「生活づくり」の推進
- 特別支援教育の情報発信

### 読書活動の充実と学校図書館を活用

- 読書の習慣化 朝読書の充実 読書ボランティアによる読み聞かせ
- 図書室を活用した授業実践…図書館司書・読書ボランティアとの連携



## 目指す姿

- ・既習事項や体験等を用いて学習問題に挑戦する子
- ・根拠を明らかにして自分の考えを表現できる子
- ・友達の考えに進んで反応できる子
- ・友達の考えを聞いて学びを深めることができる子
- ・理解したことや新たな疑問、次時への意欲を表現できる子

# 掛川市立第一小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- ・「ともに学び合う授業」が子どもにも浸透し、定着してきた。
- ・友達の意見を聴く、友達に尋ねるなど、「聴くこと・訊くこと」ができるようになり9割の子どもが自分の考えをもつことができた。
- ・「分からない」「困った」が言えない、グループの学び合いに入れられないことにより、自分の考えをもつことができない子がいる。



### 研修テーマ

#### ともに学び合う

～学び合いを通して、「わかった」「できた」が実感できる授業づくり～



### 研修の取組

**学び合いを通して「わかった」「できた」につながる手立てや支援ができたか。**

- ①各教科の本質にせまる付けたい力が付いたか。  
付けたい力を明確にし、子どもの姿で具体的にイメージした評価を考えておく。  
(評価の判断が明確になるように、授業案にA評価、B評価と、「わかった」「できた」を実感した具体的な子どもの姿を明記する。)
- ②力を付けるための有効な学び合いであったか。  
子どもの「わかった」「できた」につながる手立てや支援について検証する。  
(授業案に授業者が願う「学び合いの姿」を明記する。)

参観者は着目グループの児童の表れを見取り、上記の①②について評価を行い、有効な手立てや支援について研修を深めていく。





## 特色ある学力向上への取組

### <共通実践事項の設定>

- ・子どもの聴こうとする気持ちを育てる。(コの字型座席配置、子どもの発言を子供に返す、など)
- ・教師の意図的指名で授業を進める。
- ・ペア・グループでの学び合いを、考え作りの段階で取り入れる。

### <全体研修の充実>

- ・佐藤雅彰先生を講師として招聘し、中心授業、公開授業に対してだけでなく、校内研修への助言をいただく。
- ・全員が年間1回以上、授業公開を行い、指導をいただいたり、お互いに見合ったりする。

### <掛一小笑顔いっぱいの英語活動>

- ・3つの Good  
Good smile , Good voice , Good reaction を推進し、振り返りカードを活用する。
- ・かけがわスタンダードの活用  
スタンダードをもとに、各学年、年間計画を作成し、ALT と打ち合わせをして、計画的に授業を進める。

### <目指す授業像を学年で設定>

- ・「こんな授業をしたい」という子どもの主体的な学びの姿勢を醸成する。
- ・同じ学年の担任同士が、学級の実態や付けたい力を話し合い、統一感のある授業や指導を心掛ける。
- ・上級学年の授業を児童も参観し、次年度への見通しをもつとともに、参観される側にとっても成果を実感する機会としていく。

### <学びに必要な基礎基本の定着・徹底>

- ・居心地のいい学級・授業づくりのための「教師の心得」「授業の心得」の共通理解
- ・掛一小ノートスタンダード、掛一小の家庭学習などの設定  
上記のように、学習に必要な心構え、学習の仕方等をどの学級においても統一し、指導をすることで、安心して学習に臨むための土台作りをする。
- ・e ライブラリアドバンスを各家庭でも実施できるようにし、活用を呼びかける。



## 目指す姿

### 自分で考え進んで行動

- ・子ども同士が、主体的にかかわり合って学び合おうとする。
- ・学級のどの子も孤立することなく、全員が参加する。
- ・互いに聴き合うことを大切にして、仲間に受け入れられたことが実感できる。
- ・仲間とともに課題解決することで、「わかった」「できた」が実感できる。

# 掛川市立第二小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 小集団内での交流を繰り返すことで、伝え合いの土壌ができつつあり、全体では、発言できない児童も、交流グループでは自分の意見が言える。
- △相手の考えを主体的に聴く姿や自分の考えをわかりやすく伝えるといった対話の質の向上に課題が残る。
- △伝え合いの土壌はできつつあるが、考えを伝えるだけの交流や目的意識が明確でない交流になってしまうことがある。



### 研修テーマ

主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり



### 研修の取組

(1) つけたい力に即した、児童が解決したい課題や問いを設定する。

<視点>

→問題解決力の育成

- ①つけたい力に即した、児童が「解決したい」と思う課題や問いが設定されているか。
- ②解決するために対話が必要となる課題や問いが設定されているか。
- ③課題や問いが焦点化され、活動の目的が明確となっているか。

(2) 授業の中で、目的を明確にした「対話と思考」を工夫する。

<視点>

→コミュニケーション力・思考力の育成

- ①児童が思考を広げたり深めたりできる「対話と思考」の場面が設定されているか。
- ②対話を通して考える時間を十分に確保しているか。
- ③解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりができているか。



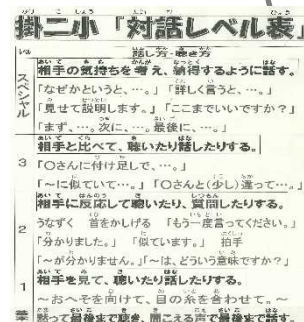




## 特色ある学力向上への取組

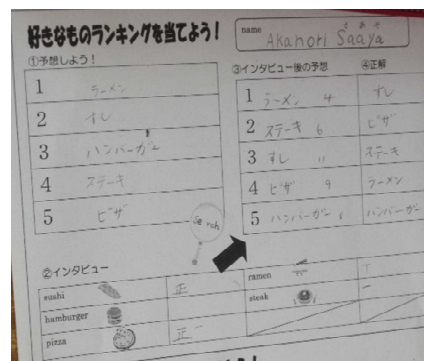
### 子どもの「対話力」を向上させるため「対話レベル表」の活用

授業内で自分の考えを話すこと、先生や友だちの考えを聴くことは学力の定着、向上に必要なことである。そこで、本校では「対話レベル表」を活用し、どのような姿で授業を受けるべきかを明確にしている。4月は「基本のレベル」の定着を目指し、さらなるレベルアップを図る。授業内で表れた良い姿を具体的に書き足したり、褒め認めたりしていくことで、子どもたちの対話力を上げ、学力向上へつなげる。



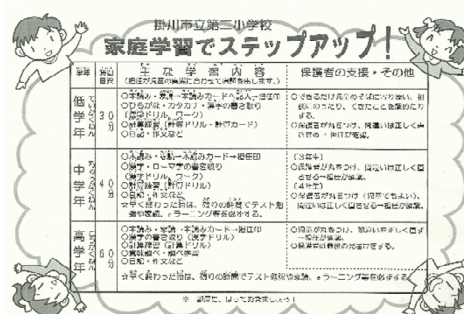
### 外国語教育

毎週火曜日を「English Day」と定め、朝の歌、授業の挨拶、朝・帰りの会の司会を外国語で行い、低学年から外国語に親しみやすい環境作りをしている。また、外国語活動の授業では、新かけがわスタンダードに掲載されているゲームを取り入れ、楽しみながら外国語に慣れ親しむようにしている。さらに「必然性のある交流活動」を大切にし、ランキング作り・クイズ・ハテナBOXなど交流活動を工夫することで、子どもたちのたくさんの人と話したいという意欲を高めるようにしている。



### 家庭学習の充実・家庭との連携

「家庭学習の目的とポイント」「家庭学習でステップアップ」を全児童へ配布し、家庭での学習習慣と学習内容の定着を図っている。eライブラリのパスワードを配布し、家庭での活用を推進している。また、読書活動の推進として「うちどく」(家での読書)や「ノーメディアデー」(親子読書・読書時間の確保)を設定している。



## 目指す姿

### 「主体的に学ぶ児童」

「分かりたい」という意欲をもって授業に臨み、「対話と思考」を通して自分の考え方を深めたり、ものの見方や考え方を広げたりすることができる児童。

# 掛川市立中央小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- ICT 機器活用が日常化し、児童の授業への興味・関心や集中度が上がり、授業内容について対話するスタイルが身についた。
- 学校アンケートで「授業がわかる」と回答した児童が H29 年度の 90%より更に 94%と伸びた。
- ▲話し合いはできるが、その学習活動によって学びを深めたり、広げたりする力は弱い。



### 研修テーマ

対話を通して学びを深める授業づくり



### 研修の取組

#### 研修の仮説

本時（単元）のめざす姿に向かっていくための対話を活発にしていく授業を展開することで、子供たちの学びが深まるであろう。

#### 研修の具体的な取組

- 「めざす姿になるための対話」をうみだす授業展開を工夫・改善する。
- 昨年度までの ICT 活用の実践を継続、進化しつつ、ICT 機器の有効な活用を模索していく。
- 新指導要領全面実施に向け、子供たちが「何ができるようになるか」という学習視点を大切にした授業づくりを意識する。
- 学年や学年団での結びつきを強くし、事前研修を充実させる。
- 事後研修後、個人の授業と重ねて振り返る場をつくり、自分の授業に生かす。






## 特色ある学力向上への取組

### 授業における「3BIG」の力の向上

思いを受け止める	分かりやすく伝える	意欲的に活動する
		
手に何も持たずに	みんなに聞こえる声で	進んで声を掛けよう
相手の方を見て	みんなの方を見て	進んで挑戦しよう
じっくり最後まで	はっきり最後まで	進んで発表しよう
反応を返しなから	反応を確かめながら	次のめあてをもとう

- 教室背面掲示で共通理解
- ステージ毎の重点を決め共通実践
- 自分の思いを友達の前で発表する場を計画的に設定
- 自分の思いを伝える方法を学ぶ機会をつくる。

### 外国語教育 (E-タイム)

全校でモーニングEタイム	低学年からの英語活動	豊かな資料を使って
		
発音の学習を中心に朝活動の時間を使って、ビデオを見ながらみんなで学習します。	「3BIG」を意識して楽しく英語に慣れる活動を行います。みんなが「英語大好き」になることを目指します。	英語の本200冊をはじめ、授業に使うカードやCDを多く備え、授業に活用します。

### 基礎基本の定着を図る取組

- ①毎週金曜日朝活動「朝のドリルタイム」
- ②ステージ末の「期末ドリルタイム」
- ③Weekend 漢字トライ
  - ・昨年度学習した漢字を週末の家庭学習として取り組む。
- ④e ライブラリーの活用
  - ・パソコンを用いての学習を授業のまとめとして、また家庭学習にも役立てる。

### ちゅうおう型生活・授業づくり

ちゅうおう型生活・授業づくりチェックリスト

授業づくりチェックリスト	
1	教室の整理・整頓を心がけ、不要な物を置かない。
2	授業の前のやろっかーの使い方を決めて、統一している。
3	授業で使うファイルや資料の置き場所を決めている。
4	教室の移動や下校前に机の周りの整理・整頓をさせている。
5	今日1日のスケジュールを掲示して、朝の集まりで確認している。
6	学校や家庭の生活の仕方やルールが分かるように工夫している。
7	学年毎の役割「図書司書等」についての行動の手順「仕方など」(手帳、マニキュア等)が示されている。
8	一人一人の思いや特性を把握し、その子の長さを生かしている。
9	授業ごとに、感想所があり認められているといった安心感を持たせている。
10	一人一人の長さを具体的に認め合い、励ましあっている。
授業づくりチェックリスト (※口は語中・英語科の授業時)	
1	授業のながりを統括、構造的な整理がなされている。
2	「I like... because...」(理由を述べ、「I like...」の前置き文章による)。
3	具体的な言葉、あいまいな表現を避け、具体的な表現をするようにしている。
4	授業の進め方や目的が分かる文章を提示している。
5	「授業の進め方」を分かりやすくまとめている。
6	学習目標を、学習目標(主活動)を、まとめやわかったことを書で書いている。
7	提示する内容を分かりやすくするための断片、断片にしている。
8	「具体物・写真・絵・動画」(目で確認)を活用している。
9	基本や定例の場面に、学習の流れを提示し、授業がスムーズに進むようにしている。
10	授業のつまずきを把握し、それに対する対応を講じている。
11	授業のつまずきに対する対応について、詳細に説明している。

### チェックリスト

学びのユニバーサルデザインの視点に立ち、教師が日々の生活や授業づくりで意識する10の内容を共通理解し実践することで、授業の質の向上を目指している。

### 目指す姿

児童が「考えを伝えたい。」「他の人の考えを聞きたい。」という学び合う意欲をもち、対話を通して学びを深める姿

# 掛川市立曾我小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

本年度の曾我小学校では、研修テーマ「伝え合うことができる子をめざして」～の実現に向けて、教師の様々な手立てを追究します。

### 1 研修テーマ

伝え合うことができる子をめざして

### 2 研究仮説

児童の実態を把握し、効果的な教師の仕掛け（揺さぶる発問・思考が整理され疑問がわく板書など）を全職員でいくつも考え、実践していくことで、有効な手立てを共有でき、授業者の日常の授業改善につながり、自分の思いや考えを相手に分かるように伝え合う子が育つだろう。

### 3 研究内容

1回の研究授業に対し、Pでは授業事前検討、Dでは授業実践、Cでは事後検討、Aでは共有した有効な手立てを日常の授業で実践、とした。本校には、特別支援学級を含めて8学級あるので合計8回の研究授業をこのサイクルで行っていく。

#### 児童の実態把握を生かした学習問題、教師の仕掛け

- ・ノートや事前アンケートなどで一人一人の考えを把握する。
- ・自分の考えをもつ時間を保証する。
- ・授業の中での子どもの考えの変容を見取る。
- ・事前に着目児を抽出しておく。
- ・授業者の切り返しの発問、話し合いの機会を増やす小グループ活動などを練る。
- ・子どもの理解や思考の助けとなるような板書を工夫して書く。
- ・明確な授業後の姿を設定し、それに合わせた教師の仕掛けをする。
- ・学習のまとめの時間を確保する。そこから授業評価をする。

#### 研究の柱＜授業評価の視点＞

「仲間とともに互いの考えを、伝え合いながら、課題解決ができたか。」

上記の視点を**子どもの姿**で事後研修する。「仲間とともに」に込められた意味は、自分の考えを表現しているかどうか、友達の思いや考えをくみとったり、引き出したりしているかどうかを検証する。また、教師がその時に用いられている言葉に着目することにより、子どもは友達を納得させるために語り聞かせるような発表ができるようになるだろう。教師は一人一人に変容にもっと気づき、課題の改善につながるだろう。

まずは、子どもたちがどれだけ付けたい力を身に付けているのか、学習指導要領に照らし合わせて実態把握をする。それから、単元計画、学習課題、学習問題を練り、さらに教師の仕掛けを考える。

## 特色ある学力向上への取組

### 【学習3の徹底】

#### 学習3

- ・聴き手を見て話す
- ・話し手を見て聴く
- ・学習用具をそろえる

### 【朝の国語学習】

- ・漢字の習得・文章を書く読む
- ・言葉の使い方  
(主語・述語・修飾語)
- ・チアアップシートを活用

### 【聞く話すのスキルアップ】

- ・聞き方・話し方の  
レベルアップ表を用いた指導

### 【朝の算数学習】

- ・計算問題
- ・前学年の復習
- ・チアアップシートを活用

### 【読書指導】

- ・年間100冊
- ・必読図書のスペシャリストをめざす
- ・心ほかほか家庭読書週間 親子読書の取組
- ・読み聞かせ「ダンボの会」

### 【eライブラリーの活用】

- ・欠席した子が授業の内容を理解するために家庭で使用する。
- ・授業の復習を家庭でするときに使用している。

### 【外国語活動】

- ・担任が授業を考え、ALTと打ち合わせをする。
- ・ワークシートをつくり、振り返りも行う。



## めざす子どもの姿

◎自分の思いや考えを相手に分かるように伝え合う子

# 掛川市立桜木小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 課題に対して自分の考えをもてない子が、見通しをもって話し合いに参加することができた。
- 協力解決学習に慣れ、自然な話し合いや活発な話し合いが生まれた。
- 友達の考えを受け止めたり、友達が分かりやすいように説明したりする力が伸びてきた。
- 全体整理だけでなく、グループ学習の中で多様な考えに触れる機会を作ることができた。
- 掘り起こしたい見方・考え方、押さえたいことを明確にして授業に取り組むことは、教師にとって教材研究の視点となり、授業に対する深い考え方が身に付いた。また、児童にとっては、「解ければいい」から「何でそうなるの?」と考える深い学びにつながった。
- 協力解決学習では、考えがノートに残らないため、復習したり前時を振り返ったりすることが難しい。教師による子どもたちの個々の見取りが難しい。
- 子どもたちの中に「分からないから教えてもらおう」という受け身の姿勢をもつ子がいた。
- 発言力の高い子、学習のペースが速い子が中心の学習になってしまう。

### 研修テーマ

**どの子ども学び続ける授業の創造**  
～子どもたちの主体性を引き出し、学びを深める～

### 研修の取組

#### 柱1 子どもたちが興味をもち、能動的に解決したくなるような単元構想の工夫

子どもたちが「わくわく」しながら学習に取り組む単元を構想することで、主体的に学びに向かう姿を引き出していきたい。授業を構想・実践・評価・改善しながら、さらに次の授業づくりに立ち向かっていく教師の姿勢と、確かな授業力を伸ばしていきたい。また、思考を助ける教材教具の準備や課題の難易度や子どもの実態に合った授業形態の工夫も単元構想の中に取り入れていきたい。

- ・「付けたい力」を明確にした単元構想
- ・自ら解決したくなるような課題の設定
- ・思考を助ける教材教具の工夫
- ・課題の難易度や子どもの実態に合わせた授業形態の工夫

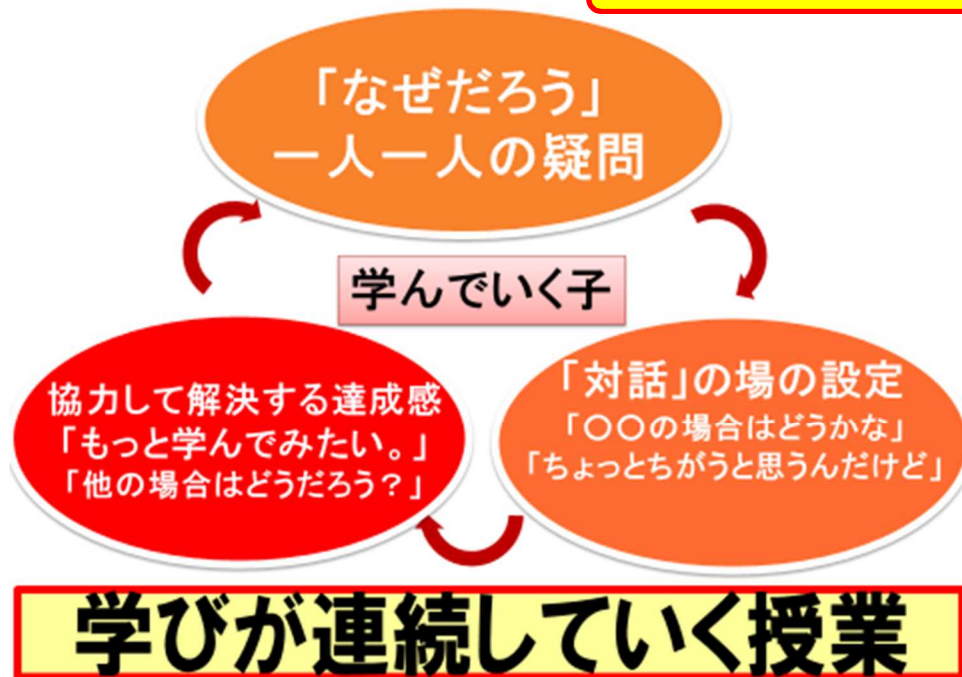
#### 柱2 子どもたちが学びを深めるための全体整理の工夫

全体整理の場において、共通点・相違点などの比較を促す発問、考えの関連性やつながりを問う発問をすることで子どもたちの学びを深めていきたい。また、子どもたちが学びを自分の言葉で書く活動を取り入れることや、教師が子どもたちの表情やつぶやき、話合いの様子をつかむことで、個の学びを見取っていきたい。

- <発問>・比較（共通点・相違点等）を促す発問・考えの関連性やつながりを問う発問
- <個の見取り>・自分の言葉で書く活動を取り入れる
- ・表情やつぶやき、話合いの様子

## 特色ある学力向上への取組

「学んでいく子」をプロデュース



### 学び部

学びの構え

学びの環境づくり

学んだことの定着・維持

- ◇桜が丘学園授業の5原則
- ◇学びの裾野を広げる
- ◇読書の充実
- ◇定着を確認する工夫
- ◇家庭学習でのeライブラリ活動
- ◇外国語活動担当教員による授業

☆「聴く力・伝える力」を耕す

☆学習環境を整える

### 生き方部

全力で取り組む姿

めあてに向かって取り組む心

- ◇心のある美しい言葉
- ◇基本的な生活習慣
- ◇具体的な目標を持たせた持続的指導で体づくり
- ◇学級活動の充実
- ◇目が開く道徳

☆きれいにする掃除

☆体育授業 スポーツタイム

☆姿勢 腰骨を立てる

## めざす姿

- ・「なぜだろう」「考えてみたい」「考えを聞きたい、伝えたい」「これならできそうだ」と、課題意識や、課題解決に向かう意欲をもち、主体的に学び続けていく子。
- ・自分の考えをもちながら、他と関わり合い、高め合うことで、解決の幅を広げ、「こんな考えもあるのか」「これとこれと関係しているんだ」「友達の考えを知って自分の考えが広がったよ」と、学びを深めていく子。

# 掛川市立和田岡小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 与えられた課題に対して真剣に取り組むことができる。
- お互いの意見を伝えたり聞いたりできるようになってきた。
  - ・個の能力差が大きく全ての児童に基礎基本の定着をさせることが難しい。
  - ・素直である反面、多数の意見に流される子や主体的な姿が見られない子がいる。



### 研修テーマ

みんな楽しい！分かる！できる！授業づくり  
～友達と関わり、本気になって取り組む子の育成を目指して～



### 研修の取組

#### 研究課題

- (1) 本気になって取り組む課題設定の在り方。
- (2) 達成感を味わう交流の在り方。
- (3) 基礎学力の定着の方法。

#### 研究の手立て

切実感のある

課題の吟味

十分な交流時間が確保できる導入部分の工夫

・導入は「ふかみ」  
ふ→復習 か→簡単な言葉  
み→見える資料で

視点を明らかにした振り返りの在り方

・振り返りは「わかった」  
わ→わかったこと か→考えたこと  
つ→追究したいこと  
た→楽しかったこと

算数を窓口教科とし、全職員で共通の方向性を持つ







## 特色ある学力向上への取組

### わだおかUD 支援

- ・授業の構え、環境づくりを意識する。
- わ：わかりやすい（指示・活動）
- だ：だまって動ける（指示・環境整備）
- お：おもいやりのある（温かい人間関係）
- か：かながえたくなる（発問・仕掛け）

### 朝の活動の充実

- ・毎週火曜日に、コミュニケーションタイムを設け、話し方・聴き方のスキルを身につけさせたり、考えを伝え合う心地よさを体験させたりする。
- ・毎週木曜日に、ドリルタイムを設け、国語の読解ドリルに取り組むことで、基礎学力の向上を図る。

### 放課後学習支援

- ・3年～6年で、金曜日の課外の時間に「ぐんぐんタイム」を設け、担任以外の教員も参加して個別指導を行う。
- ・長期休業前の放課後に「放課後学習支援」の時間を設け、級外と地域の人材による個別指導を行う。

### たしかめテスト

- ・年3回、長期休業前の学力確認テストを行う。学年便りで事前にテスト範囲を知らせたり、事前学習に取り組ませたりすることで、家庭と一緒に学習への関心を高める。再テストや個別指導を行い基礎学力の定着を図る。

### 家庭学習の共通理解

- ・「桜が丘学園 家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の習慣作りを行う。
- e ライブラリーを活用することで、児童一人一人の力に合った学習に取り組み、力を付ける。

### 外国語活動

- ・HRT 主体で授業を行うことを通して、教師も子供も外国語に親しむことを重点としている。3good(good smile, good voice, good reaction)を合言葉にし、コミュニケーションを図る楽しさを体験する。

## 目指す姿

- ・失敗を恐れずに挑戦、行動する子。
- ・相手のことを考えたり適切な判断をしたり、互いに力を合わせて活動したりする子。
- ・確かな学力が身に付き、分かったことを実感できる子。

# 掛川市立原谷小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

昨年度の研修の取組「とことん学び合いをしたくなる教師の仕掛け」  
「子ども同士の関わり合いの工夫」

- 子どもたちの「学びたい。」という意欲が高まってきた。
- 自分の考えを伝えることに対する抵抗感が減ってきた。
- △教師がねらう到達目標と子どもの学びにずれが生じ、教師主導になってしまった。
- △「自分の考えを伝え合う」だけに留まり、考えが深まらなかった。



### 研修テーマ

子どもが学びに向かう力を育む授業  
～学習課題と関わり合いを視点にして～



### 研修の取組

#### <研修仮説>

子どもの実態や思考過程をとらえて、子どもの姿で授業を語る研修を行い、「主体的に考え、解決したくなる学習課題」を設定し、「子ども同士の関わり合いの方法」について検証していけば、子どもたちが主体的に学びに向かい、より確かな学力を身に付けることができるだろう。

#### <研修の重点>

- ①子どもが主体的に考え、解決したくなる学習課題
  - ・実態を踏まえて子どもの思考を予想
  - ・子どもの思考過程に沿った構想（つまずき、気づき、引き出したい言葉）
- ②子ども同士の関わり合いの工夫
  - ・何のための関わり合いなのか、ねらいを押さえる。  
(気づく、答えを確認する、考えに自信をもつ、視点を広げる、考えを深める)



- ◇児童の思考を予想し、主体的に考え解決したくなる学習課題か、目的意識や必要感のある児童の関わり合いであるか検討する。
- ◇子どもの言葉や表れで授業を振り返る。どんな学習課題や子ども同士の関わり合いが有効であったかを検証する。

# 特色ある学力向上への取組

## ◆伝え合いレベルアップ

- ・ レベルアップ表の掲示
- ・ 声を出す場の設定  
(一斉音読・スピーチ等)
- ・ 適切な声の大きさで話す
- ・ 最後まで聴く ・ 反応

## ◆スタディタイム

- ・ 毎週火、金の朝活動
- ・ 基礎学力の向上を目指す  
漢字の読み書き・計算

## ◆チャレンジテスト

- ・ 年間3回
- ・ 80%以上合格、繰り返し挑戦

原野小学校 伝え合いレベルアップ (高学年)

**言わべ** **こころざしをもち 共に高め合おう** **聴くべ**

6. 授業の考えを思いかえたりよくらめたりして話す 「〇〇さんが言っていたことー」「つまりー」 「もっと詳しく書こうー」	6. 相手の考えのよさを自分の考えに取り入れながら聴く 「〇〇さんの考えを聞いてよかった」 「私も考えてみようー」「おもしろいかなー」
7. 授業の考えを誰かめながら話す 「ここまではいいですか」	7. 相手の言いかえに話理がわかるように聴く 「〇〇さんの言いかえはいいかなー」
8. 具体例を挙げながら話す 「例えばー」「例えばーページを見てくださーい」 「実際に先生が言われたら、実際に考えを書きましょー」	8. 自分の考えと比べながら聴く 「聴く仲間と」「自分の言えろ」「聴てきな」
9. 言葉に専念につなげて、疑問や反対意見を話す 「〇〇さんの考えを自分の考えとー」	9. 自分の考えをもちながら聴く 「聴く仲間と」「〇〇さんはどうかなー」
4. 授業の考えにつなげて、つなげないや賛成意見を話す 「〇〇さんにつなげないー」 「聴てきな仲間とー」	4. 言はずいなり、つなげたり、話理をしながら聴く 「うん、わかる」「なるほどね！」「そうなんだ」
5. みんなの考えを聴く	5. 最後まで読んで聴く
3. 授業全体に聞こえる声の大きさで話す	3. 話す人の方に顔を向けて、目を見て聴く
1. 聞き終わったら「はい！」の返事 (最後は「です」)	1. 言いたずらせず、よい態度で聴く

やさしく話す あたたく聴く

伝え合いレベルアップ表

## ◆学習習慣の確立

- ・ 聴く体勢 (話す人の目を見る)
- ・ 持ち物の約束
- ・ ノート指導  
学習課題を赤、まとめを青で囲む

## ◆すすんでホームワーク

- ・ 「学年×10分+10分」以上
- ・ 同じ場所、同じ時間帯に
- ・ 毎週火曜日に既習内容を
- ・ 保護者の見届けや丸付け
- ・ eライブラリ

## ◆外国語活動

- ・ 原野谷中英語科教員  
による授業  
(5・6年生 毎週火曜日)
- ・ 新かけがわスタンダードの活用
- ・ デジタル教材の活用



中学校教員による  
外国語活動

## 目指す姿



すすんで学びに向かう子



もっとやってみたい！

じゃあ、～したらどうなるかな。

みんなはどう考えたのかな。

◎自分の考えをもち、仲間と関わり合いながら、課題解決の方法を主体的に探っていくとする子

◎聴く力と話す力を高め、伝え合う力が身に付いている子

◎漢字の読み書き、計算力を中心とした基礎学力が定着している子

# 掛川市立原田小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 根拠をもとに自分の考えを作ったり、話し合いをしたりする姿が見られた。
- 「まず」「次に」「つまり」のようなつなぎ言葉を使って、順序立てて説明できるようになってきた。
- △知的好奇心の高まりにまでつながっていない。
- △論理的思考力・表現力が弱い。なんとなく根拠を作り、なんとなく答えを導き出している。



### 研修テーマ

## 進んでとことん学び合う子

～論理的な思考力・表現力の育成を意識した指導を通して～



### 研修の取組

#### (1) 導入の工夫

子どもが「考えてみたい」「友達の意見を聞きたい」と進んで動き出したくなるような課題提示（発問や教具などの工夫）をし、学習問題を作る。

#### (2) 算数アイテムの活用

子どもが新しい問題に取り組む時、考えの見通しをもったり、作ったりするためには、必ず「既習学習・算数表現」が基となる。これを「算数アイテム」と呼ぶ。

- ・算数表現(4マス図・線分図・面積図など)の使い方を繰り返し指導し、それを使って考えるように促す。特に、初めての算数表現は、その使い方を徹底的に指導する。
- ・新しい単元に入る前に、必ず「じゅんぴテスト」を行い、既習学習の押さえをしておく。
- ・算数コーナーを設置し、新しい単元に入るとき、単元の系統性を確認し、問題解決に必要な算数アイテムを掲示・展示し、子どもがいつでも使えるようにしておく。
- ・算数アイテムは、単元の途中で随時更新し、今後の学習に必要なものだけを掲示していく。

#### (3) つなぎ言葉を活用した言語活動

「まず」「次に」「そして」「だから」といった「つなぎ言葉」を使えるようにしていく。そのために、つなぎ言葉を使って書く・話すなどの言語活動を授業の中に取り入れるようにする。また、「もし」「だったら」のように統合的・発展的な考え方につながる言葉も増やす。その際、使い方も教えて、くり返し使っていくことで、自分のものにしていく。



## 特色ある学力向上への取組

### 基礎・基本の定着

- ・毎週火曜日の朝活動でドリルタイム（漢字計算・ワード）を行う。
- ・年4回「とことんテスト」を実施し、合格するまで、とことん再テストを行う。
- ・静岡県定着度調査・全国学力学習状況調査の分析を行う。

### 外国語活動の充実

- ・かけがわスタンダード Can-Do リストを活用した外国語授業を行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。



### 家庭学習の充実

- ・参観会や学年便りで、保護者に家庭学習の大切さを伝えていく。
- ・eライブラリーを活用した家庭学習を行う。
- ・家庭学習の時間「学年×10分＋読書10分」を意識させ、音読カードなどに毎日学習時間・読書時間を記録させる。

### 原谷小・原野谷中との連携

- ・原谷小と、キラリ音楽発表会に向けての音楽交流（4年）や、市内陸上大会に向けての合同陸上練習（6年）を行う。
- ・原野谷中学校の外国語専科の教員による授業を行う。
- ・原谷小と自然教室（5年）を合同で行う。
- ・原野谷中にて、原田小・原谷小の合同授業を行う。



## 目指す姿

### 全員が主体的に授業に参加し、 とことん課題を追究し、学び合う姿

自分の考えをみんなに伝えたい

友達の考えを聞きたい

もっと考えたい

もっと調べたい

もっとやってみよう

なんでだろう

例えば.....

.....と思う  
だって.....

まず.....次に.....  
だから.....

でも、.....



# 掛川市立西郷小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 自分から考え、動き出すきっかけをつかみ始めている児童や、学び方を理解し主体的に動く児童が見られた。
- 課題に対して自分なりの意見を持ち、伝えることができるようになってきた。
- ◆まだまだ、学びに対して受動的な児童が見られる。
- ◆対話することで、問題を解決したり、考えを深めたりするところまで至っていない。



### 研修テーマ

かかわりながらよりよく生きようとする児童の育成



### 研修の取組

- 1 「特別の教科 道徳」を窓口教科として行う。
- 2 学びづくり部と連携して「対話を意識した授業づくり」をしていく。  
※かけがわ型スキル ④コミュニケーション力
- 3 研究内容
  - (1) ねらいの明確化
    - ・ねらいとする道徳的価値について明確な考えをもつ。
    - ・道徳性を構成する様相（道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲と態度）を明確にする。
    - ・価値観、児童観、教材観を明確にする。
  - (2) 発問の工夫 ※かけがわ型スキル ①思考力 ②問題解決力
    - ・ねらいに迫る発問 ・考え、議論できる発問
    - ・問題解決的な発問 ・多面的・多角的な考えになる発問
  - (3) 振り返りの工夫
    - ・ねらいに迫る振り返り
    - ・自分事として捉えられる振り返り
    - ・効果的なワークシートの活用法





## 特色ある学力向上への取組

### <学びの楽しさの実感>

- ・話す力・聴く力を高める。  
(話す聴くタワーの活用)
- ・「対話タイム」毎週火曜日朝活動で実施する。



### <基礎基本の定着>

- ・授業の中で反復練習を位置付ける。
- ・学習の振り返りを重視する。
- ・「チャレンジテスト」長期休業前に実施する。
- ・読書を通して語彙を増やす。

### <「学びの6か条」の定着>

- ・正しい姿勢・正しい鉛筆の持ち方
- ・ノートの使い方
- ・授業準備、チャイムで着席
- ・家庭学習の約束
- ・忘れ物なし
- ・筆箱の中身

### <家庭学習での活用>

- ・eライブラリーの使用方法とIDを各児童に配布し、家庭学習で活用するようにする。
- ・「いえ読」を呼び掛け、読書好きな子を増やす。

### <外国語活動の充実>

- ・新かけがわスタンダードや前年度までのワークシート等をもとに、担任が授業構想を行う。
- ・校内での伝達研修を実施し授業改善を図る。



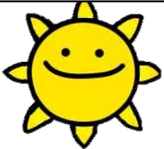
## 目指す姿

自分で考え、判断し、共に学び合う子

# 掛川市立倉真小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

子どもの実態



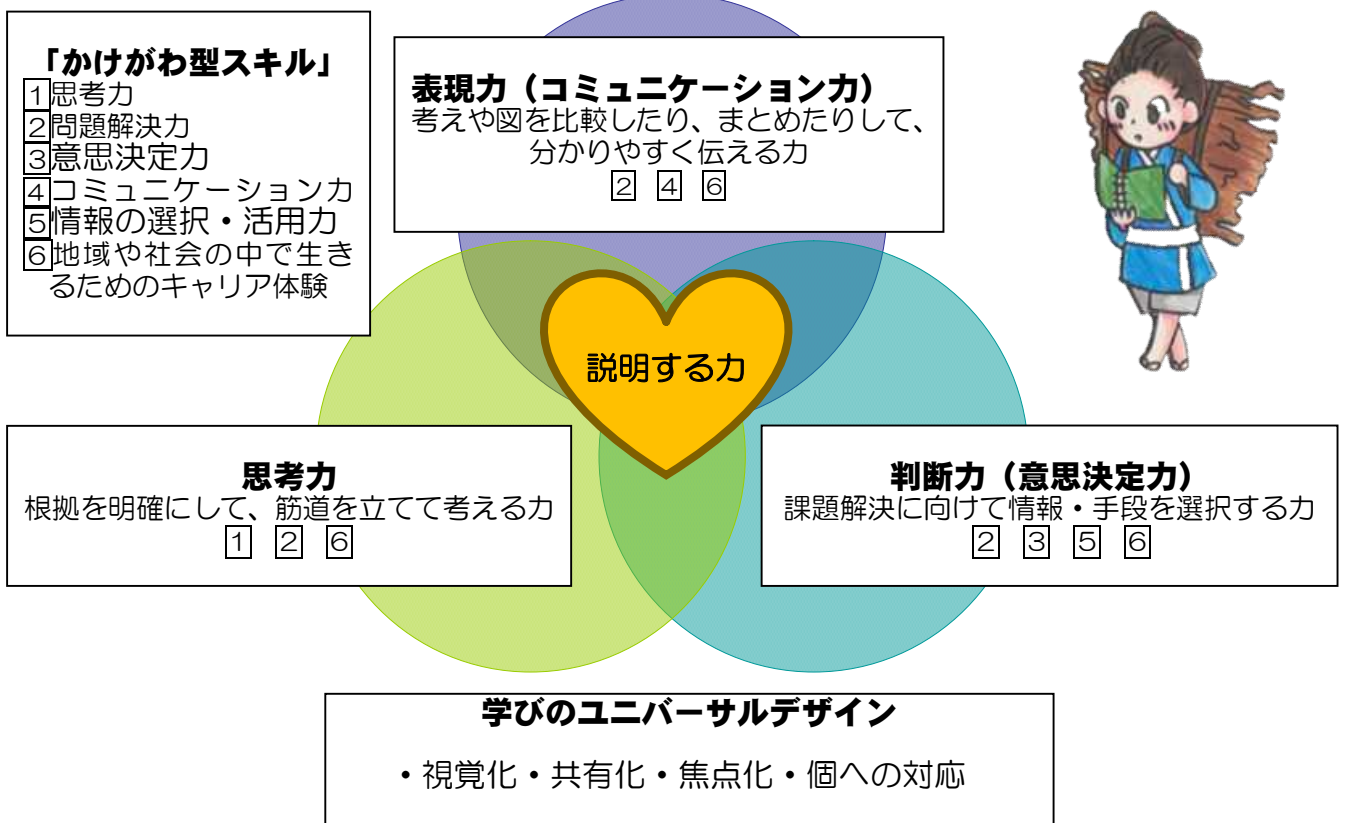
- ICT を効果的に使い、自分の思いや考えを表現する力（表現力）
- 課題解決に向けて情報・手段を選択する力（判断力）
- 根拠を明確にして筋道を立てて粘り強く考える力（思考力、主体性）

研修テーマ

「説明する力を身につけた子」の育成  
～思考力を高める学習課題の設定を通して～

研修仮説

思考力を高める学習課題を設定することで、説明する力を身につけた子を育成することができるであろう。





## 特色ある学力向上への取組

### 子ども主体の 授業

- ・ 目指す授業像の掲示
- ・ 聴く、話す、話し合う、書く 学習スキルの習得
- ・ ICT機器の効果的な活用
- ・ 外国語教育の充実 新かけがわスタンダード

### 基礎基本 (ドリル学習)

- ・ 朝計、朝漢、朝文による基礎学力の積み上げ  
(eライブラリによる計算の反復練習)
- ・ 冀北テスト(年4回)による定着の確認
- ・ 長期休業中の補習学習(学習寺子屋)
- ・ 全学年共通のノート指導、ノート展  
→文を書くのが楽しい子の育成

### 音読指導

- ・ 詩の音読(週3回)

### 読書活動の充実

- ・ 朝読書(週3回) → 読書記録を残す
- ・ 読み聞かせ(教師、ボランティア)
- ・ 身近な図書コーナーの設置(2・3階)

### 冀北学習

- ・ 主体的な課題設定で倉真地区のよさを再発見
- ・ 体験を伴った探究活動
- ・ 「冀北発表会」で地域に発信

### 課題調査の分析

- ・ 学力調査結果の分析を基にした課題の検討
- ・ 授業改善(押さえる、仕掛ける、確かめる)

### 家庭学習支援

- ・ 「家庭学習の手引き」を基にした家庭と学校の共通実践
- ・ 授業日記で授業を振り返り、次の学びに生かす
- ・ 倉真っ子チャレンジカードの活用(進んで家庭学習)
- ・ eライブラリ

## 目指す姿

- 低学年・・・自分の思いや考えが友達に伝わるように説明することができる子。
- 中学年・・・自分の思いや考えを整理し、相手に伝わりやすい方法を工夫して、説明することができる子。
- 高学年・・・根拠を明確にして、筋道を立てて考え、効果的な情報や手段を選び、伝え方を工夫して説明することができる子。

# 掛川市立土方小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

昨年度、「主体的に学び続ける子」の育成を目指し、『伝え合い「問い」を解決する授業』をテーマに①学習課題 ②意図的な交流活動についての研修を行ってきた。その結果、次のような実態が明らかになった。

- 交流活動を楽しみながら行うことができる子が増えた。
- ある程度の負荷をかけることにより子どもたちの意欲が高まった。
- ▲自分たちで話し合いを進められるような手立てが必要。
- ▲学習課題によって授業は盛り上がるが、考えを高めたり深めたりすることができない。



### 研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」



### 研修の取組

- (1) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台作り～
  - ①一人一人が発言の機会をもつ少人数
  - ②互いの顔を見て話すT字隊形
  - ③仲間とかかわり合いながら考える思考ツール「まなボード」
- (2) コミュニケーション力育成を目指す単元デザイン～対話活動の質的向上～
  - ①コミュニケーション段階表に基づき各教科・領域で、段階別の目指す子どもの姿をもつ
  - ②①の姿を意識して、単元デザインをする
  - ③対話の必然性がある学習問題の設定
- (3) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～
  - ① 板書（学習課題：白、学習問題：青、まとめ：赤）
  - ② 指導案（4校で統一指導案・「学びの系統性」（小1～中3のつながり）を入れる  
「解決したい問い」、「対話と思考」の場について指導案の中に明記）





## 特色ある学力向上への取組

### 家庭学習

- ・毎週末に家庭学習として日記や作文を書く。書いた日記は、保護者に読んでもらってから提出する。  
(振り返りノート)
- ・全校統一の学習カードを使用し、子どもが自分で家庭学習や予定の管理ができるようにする。
- ・eライブラリーアドバンスの活用。

### まなカード (学習言語系統表)

- ・「話す」「聞く」ことについて、「種、芽、つぼみ、花」それぞれの段階でつける力を決め、指導する。

たね ◎自分の考えを話す ◎相手に聞こえる声で話す ◎数分まではっきり話す ◎「です、ます」と最後まで丁寧に話す ◎短く話す	め ◎自分の考えを詳しく話す ◎理由を付けて話す ◎相手や状況に応じて話す ◎相手の立場を思いやるように話す ◎相手の話を最後まで聴く	つぼみ ◎自分の考えを整理して話す ◎相手を困らせないように話す ◎自分の考えを相手に伝える ◎相手の話をよく聴く ◎相手の話をよく聴く	はな ◎相手を理解して、自分の考えを話す ◎相手となる考えを察し、自分の考えを伝える ◎相手の話をよく聴く ◎相手の話をよく聴く
---	--	---	--

### 放課後学習

- ・地域ボランティアによる、児童の学習機会を設定する。
- ・eライブラリーアドバンスの活用。



### 読書活動

- ・1年間の個人目標を「年間50冊」に設定する。
- ・学年ごとに学校司書が選定した本を学級文庫に置き、読書に親しむ。
- ・必読図書を1年30冊、2～6年20冊に設定し、ローテーションを決めて良書に親しむ。

城東中学校区小中一貫教育研究計画に沿って研究を進め、一貫教育カリキュラムの改善案作成等を行う。

### 外国語活動

新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムの実践をする。

### 道徳

地域素材(偉人)を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

### 総合的な学習の時間

身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。



## 目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標

ほんきになって学び続ける子

# 掛川市立佐東小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

昨年度は、『児童が対話を通してまなんでいく授業』を研修主題とし、対話を生み出す交流活動の工夫に取り組んだ。対話の場を設定し、グループ構成や対話の方法、対話を支える具体物やツール等を工夫し、課題に対して考えを出し合い、試行錯誤しながら自分の考えを広げ深めていく児童の育成を目指し実践を重ねた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

- 座席や隊形など、話をするための環境を整え、授業の中で意図的な対話を取り入れたことで、児童が対話することに慣れた。
- 自分の考えに自信をもち表現できる児童が増えた。
- ▲自分の意見を友達に伝えることで終わってしまい、考えが深まらなかった。
- ▲考えを広げ深めるための対話スキルが身に付いていない。



### 研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」



### 研修の取組

- (1) コミュニケーション力育成を目指す単元構想～対話活動の質的向上～
  - ① コミュニケーション段階表に基づき、各教科・領域で段階別の目指す子どもの姿をもつ。
  - ② ①の姿を意識して、単元構想をする。
  - ③ 対話の必然性がある学習問題を設定する。
- (2) 学びを深める小集団活動～子どもが関わってまなんでいく土台づくり～
  - ① 小集団の人数は3～4人を基本とする。
  - ② 隊形をT字型に統一する。
  - ③ 対話時にホワイトボード（愛称：まなボード）を活用する。
- (3) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことができる学習環境の創出～
  - ① 板書方法を統一する。（学習課題：白枠、学習問題：青枠、まとめ：赤枠）
  - ② 指導案の形式を統一する。（9年間の学びの系統性を入れる。「解決したい問い」、「対話と思考」の場について本時の活動に明記する。





## 特色ある学力向上への取組

### 落ち着いたある教室環境づくり

- ・ 教室内のコーナーを統一
- ・ 学び合いコーナーを設置
- ・ すっきりした全面掲示

### 読書指導・読書環境の充実

- ・ 朝活動は読書を行う
- ・ 家読・親子読書の実施
- ・ 読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ
- ・ 推薦図書を選定し、質の向上を図る
- ・ 図書館司書の活用

### まなんでいく姿勢を支える

- ・ 学びじまん月間（4月）で意識作り（学習用具・チャイム席・あいさつ）
- ・ 学年ごとに設定する〇〇チャレンジ（計算カード・九九・ローマ字など）
- ・ 定着度調査の分析と個への支援

### 放課後学習・家庭学習

- ・ 学びっこタイムで基礎の定着を図る
- ・ 保護者による見届け
- ・ eライブラリーによる自主学習

## 城東学園小中一貫教育研究

城東学園小中一貫教育研究計画に沿って研究を進め、一貫教育カリキュラム実施、及び改善案の作成等を行う。

- （1）道徳科 …地域素材（偉人）を題材にした「かけがわ道徳」を有効に使用し、教科化による「考え、議論する道徳」の授業実践を行う。
- （2）外国語活動…「新かけがわスタンダード」に基づき、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムを実践する。
- （3）総合的な学習の時間…身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てるカリキュラムの作成をする。

窓口教科である道徳科の研究の成果や課題を、城東学園内の小中学校に情報発信するとともに、他校からの情報を全教職員と共有し、実践をしていく。



## 目指す姿

学校教育目標      城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標              まなんでいく子

# 掛川市立中小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

#### 【昨年度の研修の成果】

授業研究後に全学級で共通実践することをその都度確認し、全教員が3教科（外国語活動、生活科・総合的な学習の時間、道徳科）において日常的にコミュニケーション力の育成を目指した「『いい授業』づくり」を実践しようと努めることができた。

コミュニケーションに関する子どもの評価が、「伝える・受ける・対話する・つながる」のどの項目においても、90%前後の高い数値を示したことから、3教科にとどまらず他教科においても主体的にコミュニケーションをとることができた。

#### 【昨年度の研修の課題】

子どもたちの対話が意見交換にとどまることが多く、考えを十分に深め合うまでには至っていない。また、対話を通して、双方向で学び合うことによってよりよい考えをつくり上げる段階にまでは至っていない。



### 研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」



### 研修の取組

- (1) 城東中学校区小中一貫教育研究における共通の手立て
  - ア 外国語・英語、総合的な学習の時間、道徳科を中心に研修する。
  - イ コミュニケーション力育成を目指す単元構想～対話活動の質的向上～
  - ウ 学びを深める小集団活動～児童が関わって学んでいく土台づくり～
  - エ 授業のユニバーサルデザイン～子どもにとって安心できる学習環境の創出～
- (2) 総合的な学習の時間の授業について
  - ・年度初めに1年間を見通した指導計画を作成し、他学年と比較・検討する。
  - ・課題を追求する力、人や社会と関わり合う力、自分を見つめる力とコミュニケーション力を育成するための授業研究を行う。
  - 教材や課題の設定、単元構成、地域の教育力活用等について研究を深める。
  - ・1時間の中で、コミュニケーション力を確実に育てるための、学習問題と小集団活動の工夫を考え実践し、検証する。
  - ・各学級における日常的な授業研究等の記録を、写真やワークシート等を使ってまとめる。
- (3) 外国語活動と道徳科の授業について

城東中学校区小中一貫教育研究の両班会の話し合いを、全教員と共有すると共に、各学級において実践していく。
- (4) 日常的に、研修における、目的、視点、成果・課題、改善を焦点化し一貫させる等、PDCAサイクルを実行する。



## 特色ある学力向上への取組

### 3つくりの重点活動を授業とする

学びづくり…外国語活動、生活科・総合的な学習の時間、小小・小中の交流活動の授業

心づくり…道徳科、小小・小中の交流活動の授業

体づくり…体育科、小小・小中の交流活動の授業

3つくり部が作成した各教科の『「いい授業」づくり』の内容を、各学級において日常的に実践研究する。→教師の授業力向上を図る。

→コミュニケーション力等を育成する。

城東中学校校区小中一貫教育研究計画に沿って研究を進め、一貫教育カリキュラムの改善案作成等を行う。

(1) 外国語活動…小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムの作成→実践研究 新かけがわスタンダードの有効活用

(2) 道徳科…地域素材(偉人)を題材にしたかけがわ道徳を有効に使い、教科化による「考え、議論する道徳」に対応したカリキュラムの作成→実践研究

(3) 総合的な学習の時間…身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てるカリキュラムの作成→実践研究

### 中小日記…「書くこと」の指導

#### 【ねらい】

- ① 6年間継続して書くことで、基礎学力のもとになる「書く力」を身につけさせる。
- ② 書いたものを紹介し合うことで、自分や友達のよさやがんばりを感じさせる。

#### 【方法】

- ・金曜日の朝の時間に日記を書く。
- ・学年ごと、全員に身につけさせる指導事項を設ける。

### 家庭学習の充実

#### 【ねらい】

自ら学ぼうとする習慣づけを図る。

#### 【方法】

- ・城東学園家庭学習7か条の重点目標「学年目標時間(10分×学年+10分)の学習」を目指す。
- ・学校での学習内容を伝える「お茶の間学び発表会」を行う。
- ・eライブラリーの活用を促す。



## 目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標 自分から学ぶ子 人と学び合う子

# 掛川市立大坂小学校

## 令和元年度 我が校ものがたり

学校教育目標「心の鐘をひびかせる子」に向かい、他と関わり合う中で個の確立を目指していきます。「さあ、やってみよう みんなでいっしょに」を重点目標に、集団生活の中で、他と関わり合いながら、自分のもっている力に気づき、それを生かそうと努力する児童の育成に努めていきます。

「学びつくり」の取組では、「学び合いの中で『わかった!』『できた!』を実感する子」の育成を目指します。全職員が、学びのユニバーサルデザインを意識し、①学びの土台づくり、②「学び合い」の授業づくりの両輪により確かな学力の育成を進めていきます。

学び合いの中で「わかった!」「できた!」を実感する子の育成

### 学びの土台づくり

- 1 学びのルールを身につける。  
(学びを支える学習用具表)
- 2 話す力、聴く力を高める。  
(話す・聴くステップ一覧表)
- 3 基礎学力の定着を図る。  
(朝のぐんぐんタイム)
- 4 家庭学習の習慣をつける。  
(eライブラリを活用)

学びのユニバーサルデザイン

### 「学び合い」の授業づくり

- 1 めざす学級像をつくる。
- 2 子どもの問いや思いを大切にす  
る。
- 3 自分の考えを持つ場をつくる。
- 4 単元を通して子どものどきどき  
わくわくする気持ちをつなげる。

### 校内研修の充実

「共に学び合い、わかった!できた!を  
実感する子」の育成

つくる

学びのルールを  
身につけます。

- ・学びのルール定着
- ・めざす学級像
- ・何を学ぶかの確認
- ・読書の習慣
- ・家庭学習の習慣

家庭学習の習慣

そだてる

自分の考えを作  
ります。

- ・わかりやすいノート  
づくり
- ・自分の考えを書く。
- ・何を学んだかの確認
- ・親子読書

親子読書

さかせる

みんなで学び合  
います。

- ・話す力、聴く力を高  
める。
- ・ペアやグループでの  
話し合い。
- ・学びのルールの確認

ノーマディアデイ

つなげる

学習のまとめを  
します。

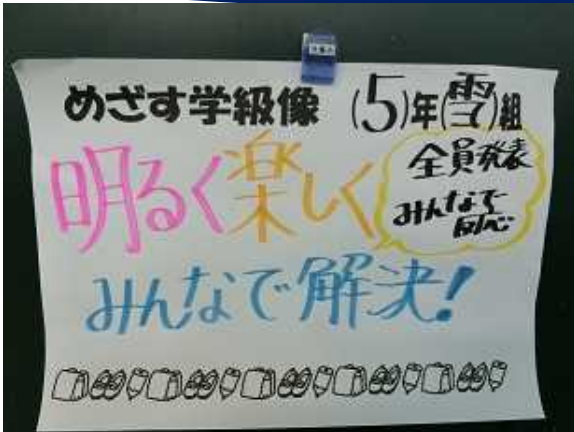
- ・学びのルールを次年  
度へつなげる。
- ・ついた力や授業を振  
り返り、認め合う。
- ・学んだことの定着

「開かれた学校」 家庭・地域の支援と協働で子どもを育てる大浜中学校区学園化の推進

○子育て5か条 ○学校公開 ○交流連携活動 ○学校運営協議会・大坂小教育を語る会 ○地域素材の教材化



つくるステージは、学びのルールを身につけます。



各学級の「めざす学級像」決定!



「学びを支える学習用具」をみんなで確認し、学習の構えをつくるためのルールを身につけます。

そだてるステージは、自分の考えを作ります。



学びのユニバーサルデザイン  
考えの流れがわかる板書づくりをします。



ICTの活用  
いろいろなツールを使い、考えを作ります。

さかせるステージは、みんなで学び合います。



外国語活動  
全学年、1年を通して取り組んでいます。



ペアやグループでの交流  
自分の考えを友だちと深め合います。

つなげるステージは、学習のまとめをします。

# 掛川市立千浜小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 児童が主体的に学び、学びの実感がもてるよう、必要感のある考えたくなるような学習問題を設定したことで、意欲的に学習に取り組む姿が増えてきた。
- 1時間の授業の中に交流の場を設定し、発達段階に応じて交流の仕方を工夫することで、友達と学び合う姿が広がりつつある。
- ▲聞き手に分かりやすく伝える力が身に付いていない。



### 研修テーマ

主体的に 学び合う子



### 研修の取組

窓口教科「算数」

#### 研究仮説

<仮説1>

必要感のある問題を設定すれば、自ら課題を見つけて対話し考えを高め合う子が育つであろう。（かけがわ型スキル 問題解決力）

<仮説2>

教科の用語を適切に使って考えたり説明したりして自分の言葉で伝えることができれば、学んだことを活用できる子に育つであろう。





## 特色ある学力向上への取組

### 【ユニバーサルデザインを意識した授業】

- ・ 1時間の授業の流れが見通せるミニホワイトボードの活用
- ・ 中学校区で統一した板書（学習問題は赤枠、まとめは青枠）

### 【外国語教育】

- ・ 新かけがわスタンダードの活用
- ・ ALTとの連携

### 【家庭との連携】

- ・ 家庭学習の手引きの配布
- ・ 家庭学習時間の意識化
- ・ eライブラリーの推奨

### 【読書指導の充実】

- ・ 朝読書（週3日）
- ・ 読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ（毎週水曜日）
- ・ 学年に応じた必読書の設定
- ・ 毎日の家庭での読書の推進
- ・ 学校図書館を活用した授業の推進

### 【教室環境の整備】

- ・ 学習コーナー、道徳コーナーの設置
- ・ すっきりした全面掲示



## 目指す姿

- ・ 自ら課題を見つけて対話しながら考えを高め合う子
- ・ 教科の用語を適切に使って考えたり説明したりして課題を解決し、学んだことを活用できる子

# 掛川市立横須賀小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態（H30年度 成果と課題）

- 人と関わることへの関心が高まり、友だちと話してみたい、聞きたいという気持ちが盛り上がっていくことで、対話的な雰囲気醸成することができた。
- 外国語活動の特性を生かして、自分のことを話したり、相手のことをもっと知りたいという気持ちをもったりするなど他者理解が深まった。
- 人との関わりの場面では、同じ学級の友だちや同じ学年の友だちに限定されていることが多いので、さらに広げて、他学年や、様々な人と関わるなど、新しい場面にチャレンジさせていく。
- 外国語活動だけでなく、他教科でも自ら進んで友だちと関わりながら学ぶ力を高めたい。



### 研修テーマ

聞き合い学び合う全員参加の授業づくり  
～子ども一人一人の学びを保障する『学び合い』を目指して～



### 研究仮説

「分からない」「教えて」を言い合い、仲間の言葉に耳を傾けて聞いたり、質問して訊いたりすることができれば、全員参加の授業づくりが実現するだろう。



### 研修内容

- ・聴き合う関係づくり
- ・夢中で取り組むことのできる課題設定  
(共有の課題、ジャンプの課題)
- ・ペアやグループなどの場の設定

## 特色ある学力向上への取組

### ◇外国語活動◇

- ☆水曜日はイングリッシュ・デー
  - ・朝活動…E タイム
  - ・朝のあいさつは「Good Morning!」
  - ・朝、下校の放送は英語で行う。
- ☆英語を親しむ活動
  - ・ハロウィン集会、クリスマスパーティー
  - ・外国語教室にピクチャーカードや掲示資料
  - ・英語の本の読み聞かせなどで聞く活動
- ☆大瀬小との外国語交流学习
- ☆英語の掲示物を掲示する。

### ◇少人数指導◇

- ☆6年生の算数・・・習熟度別少人数指導を行うことで基礎基本を定着させつまずきに合わせて、きめ細やかな指導、支援を行う。

### ◇ICT 機器の活用◇

- ☆ICT を効果的に活用した授業
- ☆調べる、まとめる、伝えることでの活用
- ☆プログラミング教材の積極的な活用

### ◇家庭学習の習慣化◇

- ☆学年ごとの家庭学習時間の目安の提示
- ☆e ライブラリーの活用
  - ・ホームページからの簡単アクセス
- ☆学年 PTA との連携

### ◇読書指導◇

- ☆朝活動での開き読み、読書
  - ・図書ボランティアによる開き読み
  - ・読書カードの活用
- ☆学校司書の活用
  - ・読書の時間や授業での本等の紹介



## 目指す『学び合い』とは・・・

- 「分からない」「教えて」が言えて、共に解決しようとする姿。
- 仲間の言葉に耳を傾けて聴く。質問して訊く。
- 得意な子どもも苦手な子どもも、1人残らず授業に参加する。



# 掛川市立大渕小学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

平成 30 年度 研修テーマ「自分の考えをもち 学び合う子」を育てる授業  
成果

- ・自分の考えをもたせる工夫を取り入れることによって、自力で自分の考えをつくることができるようになってきた。
- ・視点を与えて交流することで、交流の意図がはっきりして聴き方の向上につながった。

課題

- ・自分の考えをもつことができない子への支援をどうすればよいか。
- ・課題解決に向けて仲間と関わりながら相談したり、交流したりしていこうとする追求意欲を高めるにはどうすればよいか。

### 令和元年度研修テーマ



「自ら考え 自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業



### 研修の取組

#### (1) 主体的な学びを生み出す単元構想

- ア 単元でつけたい力の明確化
- イ 子どもの思考の流れに沿った単元構想の作成
- ウ 発達段階に応じた「つけたい力」の明確化（6年間の系統的指導）

#### (2) 追究意欲を高める発問

- ア 追究したくなる課題の設定
- イ 学びを深める発問の工夫

#### (3) 視点を明確にした交流

目標達成のための視点を明確にした交流を行うことによって、互いの考えを統合・深化・取捨・選択し、より良いものを作り出す活動を行う。

## 特色ある学力向上への取組



### めざす授業像の共有

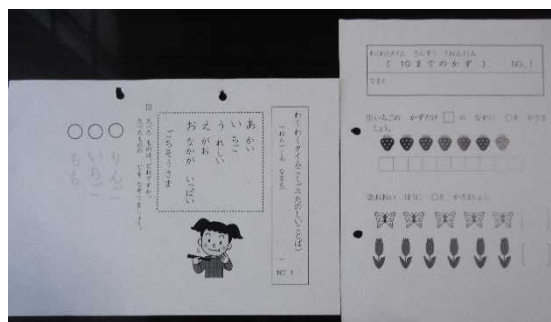
年度初めに、学び合う姿を話し合う。そして、自分の取り組むべき目標を見極め、掲示し日々振り返ることで成長を確かめていく。

また、分かりやすい話し方、聴き方語録を学級の宝として掲示する。



### 基礎学力の定着と読書活動の推進

- 1 わくわくタイムの活動（朝活動）
  - ・漢字、計算、読解問題に挑戦する。
  - ・隔週で、読み聞かせと読書を行う。
- 2 マスターテスト（学期末）
  - ・漢字の読み書きと算数全般の理解の確認と定着を図る。



### 家庭学習（学年×10+10分）

音読、漢字、計算を中心に取り組み、本読みカードを活用しながら、家庭と連携して指導していく。

eライブラリーの活用法を知らせ、自主的な取り組み奨励していく。

### 外国語教育の推進

新かけがわスタンダード Can-Doリストを活用する。

ALTと打ち合わせを確実にして、子どもたちに楽しく分かりやすい外国語活動を行う。

## 目指す姿



重点目標「みがこう自分を 高め合おうみんな」の具現化された姿として

〈自分に対するやさしいパワー〉

- \*自分で考えて行動する。
- \*目標に向かってやり抜く。

〈みんなでつくるやさしいパワー〉

- \*誰とでも関わり、みんなで高め合う。

☆自分で考え 励まし合い  
最後までやり抜く子

☆自ら考え  
自分の言葉で伝え合う子





中 学 校

# 掛川市立栄川中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

#### <昨年度の成果と課題>

- 授業の中でねらいをもった小集団活動を位置づけ、様々な形態の交流活動を行うことにより、目的をもって話を聴いたり、わかりやすく伝えようとしたりする姿が増えた。  
話を聴いたり、わかりやすく伝えようとしたりする姿が増えた。
- 交流活動の際、生徒が意欲的に取り組みたくなるような学習問題を設定することにより、自分の考えと友達のことを比べ、お互いに深め合おうとする姿が増えた。
- ▲特定の生徒の意見に流され、意見が偏ってしまう傾向が見られる。
- ▲自分の考えを表現することが苦手な生徒が多い。

### 研修テーマ

「進んでかかわり 学び合う生徒」の育成

### 研修の取組

#### <研修の重点>

「学び合い」を意識した授業づくり

#### <仮説>

- ① 学習問題（深く追究させたい問い）を設定し、まず一人でじっくり考える時間を確保することが、生徒の問題解決能力の向上につながるだろう。
- ② 小集団活動で互いの意見を交わし、議論することにより、生徒一人ひとりの深い学びやコミュニケーション能力の向上につながるだろう。
- ③ 「学びのUD」の視点（焦点化、視覚化、共有化）に立った支援をすることで、すべての生徒を学びのステージに立たせることができるだろう。

平成30年度より、『学び合い』の研修を積んできている。

小集団活動の質的な向上を図るため、学習問題が適切であったか、また、交流活動は目標に迫る有効的な活動となっているのか等を検証していく。

## 学力向上への特色ある取組

### <英語活動>

- ・毎週火曜日8:00~8:15
- ・前期3年生、後期2年生

英語コミュニケーション活動としてリスニングと単語当てゲーム等を通して、スキルアップを図っている。



### <読解力向上学習>

- ・毎週金曜日8:00~8:10
- ・新聞記事を読み、内容理解を深めるための問いを数問解き、理解した内容について友達と数分間ディスカッションする。

文章読解力を向上させるための活動である。グローバル化が進み、社会が大きく変化していく中で高校入試や大学共通テスト等で求められる能力も変革の時を迎えている。テストでは、まず問題を読み取る力が必要となる。



### <家庭学習>

各教科の提出物に加え、チア・アップシートやeライブラリーを活用している。特に、3年生については、入試対策としてeライブラリーにある入試の過去問題に取り組んでいる。本年度も継続的に活用することを予定している。

## 目指す姿

- ② 考えを比べながら聴き、伝え合う姿
- ② 仲間と協力して、課題を解決する姿
- ③ 自分の思いや考えをわかりやすく表現する姿

# 掛川市立東中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 行事や部活動、生徒会活動に精一杯取り組んでいる。
- 明るいあいさつ、正しい服装・美しい身だしなみが身につけており、まじめな態度で授業に取り組んでいる。
- 全国学力学習状況調査（国語・数学）が引き続き全国平均を上回った。
- 「きき合う関係」が学校全体に広がりつつある。
- もっと「わからないこと」を主体的に追究しようとする態度を育てたい。
- 教科や領域のつながりを意識し、広い視野に立って考えられる力を育てたい。
- 学力のさらなる定着と家庭学習の習慣化を進めたい。
- 交通ルールとマナーの向上に、より一層努力をさせたい。



### 研修テーマ

仲間との学び合いを通して、全員が「わかった」「できた」と感じる授業づくり

### 研修の取組

すべての教育活動において「学び合い」を基本として取り組んでいます。平成 26 年度から、コの字型座席配置、小集団学習を全学級で実施し、学び合いルールの周知徹底を図ることで、教師と生徒による 1 人も見捨てない学校、学級、授業づくりに努めてきました。ただし、こうした取組も、授業においては、単元を通して付きたい力が明確になっていなければ、また、付きたい力に迫る適切な手立てが講じられていなければ、効果が得られません。そこで、授業づくりの基本となる「押さえる、仕掛ける、確かめる」という視点を全教員で共通理解し、まとめの時間を十分に確保することも徹底しました。

さらに、平成 31 年度は、「かけがわ型スキル」の 1 つである「コミュニケーション力」育成のため、受容的に聞くスキルトレーニングを毎週金曜日の朝に全学級で行います。この活動は、隣同士のペアで、1 つの話題について話したり聞いたりする活動です。まず、話し手が 1 分間で話題について話します。聞き手は傾聴したのち、1 分以内で聞き取った内容をそのまま話し手に返したり、感想を付け加えたり、話の内容に質問したりします。話し手は、聞き手が受容的な姿勢を見せることで、「伝わった」「わかってもらった」あるいは「認めてもらった」という実感をもつことができます。



# 特色ある学力向上への取組

- 仲間と高め合う「学び合い」の授業
- 地域から学ぶ総合的な学習の時間「掛川学」
- 外国語教育におけるICTの活用（話すことのパフォーマンスをタブレットで録画し相互評価）
- 家庭学習サポートのためのeライブラリの活用

## 仲間と高め合う 学び合いの授業

「話しかけやすい」「顔を見て話せる」「気持ち伝わる」  
「みんなで協力して授業ができる」等、  
仲間と力を合わせてつくり上げる授業をめざしています。

やる気の共有  
困り感の共有

話し合いの場が見え、発言が明るく安心して学べる場となっています。

難しい問題も力を合わせればきつとできる。

考えたことを仲間に伝えよう。

学力ある授業が  
いっぱい！

学習活動別学習効果

聞いたとき	10%
見たとき	15%
聞いて見たとき	20%
話し合ったとき	40%
体験したとき	80%
教えたとき	90%

## 総合的な学習の時間「掛川学」

東中の総合的な学習の時間では、「掛川市」をテーマとして、地域や学校を知り、その上で地域や学校に関わる諸問題について考え、解決していく地域に根ざした学習「掛川学」を推進しています。

1年生 「防災を通して掛川を知る」

2年生 「掛川で働く」

3年生 「掛川を考える」

ある日突然発生する災害に対して掛川市は、どんな取り組みをしているのか学習しました。

災害時「助けられる人から助けられる人になる」にはどうしたらいいのか深く考えました。

さまざまな事業所で一生懸命働きました。

「働くことの意義」について、実際の仕事の内容を含めてご講話をいただきました。

「区長さんとお話を」で安全・安心な街づくりについて話し合いました。

これからの掛川についてテーマごとにご講話をいただきました。

授業改善について専門  
家（日本大学准教授）の指  
導を受けて進めます。



## 目指す姿

- 校歌が伝える東中の精神「平和と自主こそ揺るがぬ誓いぞ」  
平和を脅かすいじめ、差別、偏見、暴力などをなくし、自分の手で平和な学級、学校、社会を絶対につくると、私たちは校歌を歌い宣言します。
- 地域と共にある学校  
中学校学園化構想「掛東学園」を基盤に、地域・家庭・教職員が一体となって生徒一人ひとりを育てます。
- 学び合う力の育成  
グローバル社会を生き抜くために、他と関わりながらよりよく問題を解決していく能力の育成を目指します。

校歌

一 東海ひいずる  
山脈めぐりて  
平和と自主こそ  
進めよ 我が友  
こぞれり この丘

二 葛の繁しげれる  
輝く穂の波  
天地の創造  
磨けよ 我が友  
こぞれり この丘

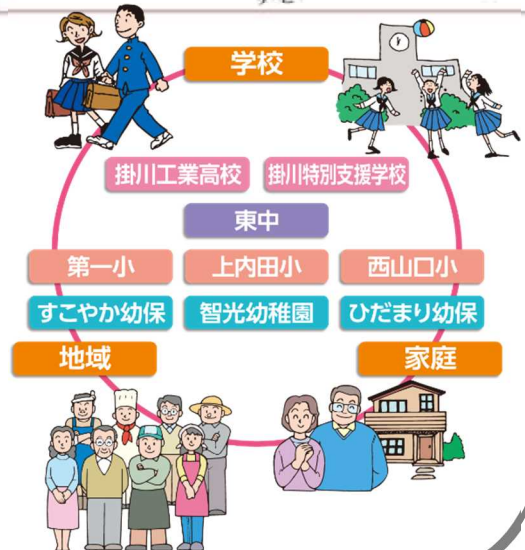
三 天主の台下に  
校旗はまれり  
愛なり 敬なり  
修めよ 我が友  
こぞれり この丘

春風流れて  
誇りの歴史に  
教えは尊し  
崇めよ 我が友  
こぞれり この丘

沃野のひろがり  
あふるる茶の香と  
この身にうけたり  
文化は育てむ  
楛楸は匂えり

真白き富士ヶ嶺  
地平に到れり  
揺がぬ誓いぞ  
さかしき道をも  
楛楸は匂えり

作詞 藤野 洋  
作曲 藤野 洋  
昭和二十八年三月制定



# 掛川市立西中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

- 明るく素直、まじめである
- 指示されたことはまじめに取り組む
- やり方が分かったことには進んで取り組む
- 集会への集合・聞く態度が素晴らしい
- 挨拶・清掃態度は模範的
- 行事や部活動への取組は前向き

### 生徒の実態

- ▲自信をもって自分の考えを発表したり、進んで行動したりすることが不得手
- ▲苦しいことや厳しい状況に立ち向かう逞さに欠ける
- ▲人間関係づくりや対人コミュニケーションに欠ける生徒が見られる

令和元年度 掛川市立西中学校 研修構想図

〈学校教育目標〉 未来に向かってチャレンジする生徒

〈重点目標〉 伸ばそう 自分らしさ 認めよう 友の良さ

各教科

単元構想における  
学習問題のつながり  
を見通す

問題解決のための  
よりよい手だてを追究  
学びが深まる交流とは

学習問題の設定

生徒が思わず考えたくなる

△令和元年度 研修主題▽

道徳

「考え、議論する道徳」  
生徒が積極的に  
追究できる学習問題とは

他から学ぶ姿勢  
を育てる  
議論する道徳とは

ローテーション道徳  
による学習問題の研究

共通実践項目（日々の授業）

①つぶやきを大切にしたい授業

- ・生徒が「分からない」をつぶやける授業
- ・生徒のつぶやきや反応に耳を傾ける
- ・生徒のつぶやきを本時の目標につなげる
- ・生徒と生徒を繋ぐ教師

②学習問題を明確にする→赤囲み

- ・日々の授業から生徒が思わず考えたくなる学習問題を追究する
- ・板書では学習問題を赤で囲み、生徒が考えることを明確にする

③学びが深まるための交流

- ・学びが深まるための交流場面を積極的に取り入れる

## 特色ある学力向上への取組

### 生徒が自ら学ぶ授業への転換

- ① 生徒が思わず考えたくなる学習問題
- ② 学びが深まる交流活動の設定
- ③ 効果の上がる家庭学習の工夫
- ④ ICTを取り入れた授業
- ⑤ eライブラリを利用した家庭学習紹介
- ⑥ IBAを活用した英語力向上
- ⑦ 技術・家庭科における Pepper を利用したプログラミング学習

### 道徳の授業力向上

- ① 道徳指導案を共同で作成する校内研修  
(道徳における学習問題の研究)
- ② 道徳主任による『道徳だより』の発行
- ③ 学年道徳主任が毎時の授業展開を提示  
(学習問題を精選して提示する)
- ④ ローテーション道徳による学習問題の研究  
(教員同士が授業を見合い授業力向上)
- ⑤ 「振り返りカード」を全学年で使用  
(評価を見通した資料づくり)
- ⑥ 教室掲示「道徳コーナー」を設置  
(道徳の授業で扱った価値の見える化)

### 掛西学園（5園4校）の連携

- ① 学習のルールの徹底  
(友達の方を向いて、最後まで聞くことができるようにさせる。聞くときは聞く、書くときは書く。)
- ② 家庭の共通実践項目を設置  
(基本的な生活習慣の確立「早寝早起き朝ご飯」)
- ③ 教師の共通実践項目を設置し取り組む  
(学習の流れがわかりやすい板書、生徒の発言を大切に聞く、授業の中でどんどん褒める。)

### 読書環境の充実

- ① ボランティアによる読み聞かせ
- ② 集団読書
- ③ 教師による本の紹介
- ④ 市立図書館司書のブックトーク

### 地域に根ざした学校として

- ① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動  
(読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会)
- ② 近隣高校との公開授業による指導方法向上の連携

### 目指す姿（本校が目指す生徒像）

#### 子どもが主役として輝く学校

- ・ 夢や目標をもち、自ら新しいものを求めていく生徒 <向上心・創意工夫>
- ・ 違いを個性と認め、どんな仲間とも協働していく生徒 <多様性・協働>
- ・ 自分たちで問題を解決し、乗り越えていく生徒 <自律・逞しさ>

# 掛川市立桜が丘中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- 真面目な生徒が多く、授業態度は良い。
- 指示されたことに対して素直に取り組む。
- 仲間とともに一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
- ▲粘り強さにやや欠け、難しい問題や困難な課題に対してあきらめしまう。
- ▲生み出された次の課題やより上の目標を目指して、自ら進んで取り組もうとする自主性にやや欠ける。

### 研修テーマ

深い学びのある授業  
～考えを深める手立ての工夫～

### 研修の取組

- ア 単元が終わった後の姿の想定と学習のプロセスを踏んだ単元・題材づくり  
生徒の実態に即し、単元・題材で付けたい力を学習指導要領と照らして設定する。
- イ 深い学びとは何かの共通理解  
深い学びが達成されるよう、生徒主体で対話的な授業をベースに深い学びを達成させる  
→かけがわ型スキル(思考力・問題解決力 意志決定力の育成)  
※深い学び  
○自分たちで課題を見つけて追究できる学び  
○学んだ知識を関連づけてより明確に理解する学び。  
○伝え合いを通して、新たな考えに気付いたり、1つの解に絞ったりする学び。
- ウ 深い学びを達成するための手立ての工夫 かけがわ型スキル
- |              |   |
|--------------|---|
| チ<br>ーム<br>研 | ○発問の工夫 身近な事象から疑問に結び付ける課題 ・対話を必要とする課題 など |
|              | ○対話の工夫 目的をもって必要感のある対話活動を行う。小集団員の構成の工夫   |
|              | ○提示資料の活用 具体物、写真、ICT機器、関連資料              |
|              | ○教員による「学びのつなぎ」生徒の思考をつなぐ 他教科、既習事項とつなぐ    |
|              | ○振り返りの工夫 学びを実感できる振り返りの仕方 単元計画の見直し       |



# 特色ある学力向上への取り組み

## ○授業改善の視点(静岡県教育委員会)

- 1 学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行う。・・・「押さえる」
- 2 付きたい力に沿って効果的な手立てを仕掛ける。・・・「仕掛ける」
- 3 子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定する。・・・「確かめる」

## ○かけがわ学力向上ものがたり

- ・「新たな学びのプロセス」への転換
- ・言語活動の充実
- ・地域の人に学ぶ活動の推進
- ・読解力を伸ばす問題の作成
- ・読書活動の充実
- ・学力向上指標の提示
- ・外国語学習にたくましく取り組む姿勢を育成するために表現活動を中心とした知識活用の場面を多く設定する。

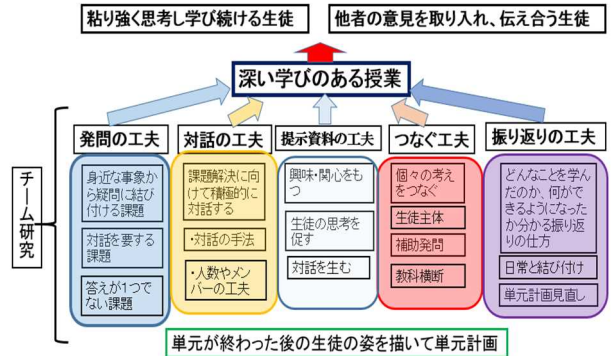
## ○中学校区学園化構想(桜が丘学園)

- ・家庭・地域等との連携を強化し、開かれた学校の一層の推進を図る。
- ・「すこやか子育て10ヶ条」の活用
- ・「桜が丘学園学習のてびき」の活用

学びの実感を積み重ねる「ものがたり」

## ○達成感の味わえる授業づくり

H31年度 研修構想図



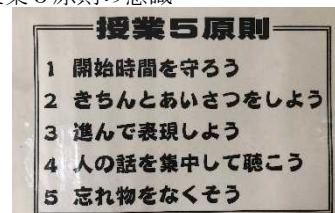
生徒が活躍する授業づくり

## ○確かな学力の定着

- ・基礎・基本の徹底
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・家庭学習の充実
- ・朝読書の充実、図書環境の整備
- ・補充学習により学習の継続性を図る

## ○学習指導

- ・授業5原則の意識



- ・基礎学習の実施

漢字・数学・英語の1Pノートで基本知識の定着をはかり、eライブラリーの問題を参考に応用問題にもふれる機会をつくる。

目指す姿

粘り強く思考し、学び続ける生徒。

伝え合い、他者の意見を取り入れる生徒。

# 掛川市立原野谷中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

学区は、旧原田村（原田小学校学区）、旧原谷村（原谷小学校学区）の2地区に分かれています。北部地域は美しい自然環境・温かな人間関係に支えられた農山村地域でしたが、近年は兼業農家が目立つようになってきました。また、新東名高速道路が通過し、インターチェンジも近くにあるため、学校周辺の交通量は比較的多いです。南部地域も農村地域と住宅密集地域が広がっていますが、天竜浜名湖鉄道沿線の住宅化が進み、多様な考え方や進取斬新な気風が生まれつつあります。そうした両地域の持つ特性が生徒の長所をつくる基礎となっています。しかし、両地域とも全体として共働き家庭が多くなってきているため、生徒指導上留意しなければならない点も多くあります。

原野谷中学校区の子どもの特徴としては、大変純朴であり、落ち着いた生活を送っていることが挙げられます。諸活動に熱心に取り組み、また、明るいあいさつができ、小規模集団ならではの生徒相互の気心が通じているというよさもあります。学習では、まじめな態度で授業に取り組んでいます。

一方、課題としては、校外に出たときに主体的に行動できる力や、根拠を明確にして相手にわかりやすく考えを伝える力が乏しいという点が挙げられます。また、辺境の中山間地に位置する地域であるがゆえに、社会性に乏しく、競争によって培われるたくましさに欠ける子どもも少なからずいます。さらに、人間関係で悩みをもつ生徒もおり、心の教育の必要性を感じています。

本校の生徒は、他者（教材・題材・学習問題等）の考えや、そこに込められた思いを理解すること、根拠を明確にするなどして相手にわかりやすく自分の考えを伝えることが苦手であることが、授業中の様子や校内定期テストの結果から明らかとなり、平成30年度よりこれらの点を改善するための研究主題を設定することとしました。昨年度この研究主題の下、全教職員が、研究仮説・研究方法・評価方法を個々に設定し、主題研究に取り組みました。この結果、各教科で目指す生徒に向かった実践的研究が進められ、その成果を研究集録にまとめました。今年度も引き続き、同研究主題の下、実践的研究を推進していきます。

【H30年度研究主題】  
他者の考えを理解した上で、自分の考えを分かりやすく伝えることができる生徒の育成

No.	Name	教科	実践名
1	山本高裕	国語	根拠を明確にして魅力を伝えよう。
2	大石佳治	社会	誰を市長に選ぶべき？
3	柴田勝明	数学	携帯電話の料金プランあなたのおすすめは？
4	永野翔一	数学	相似の利用
5	伊藤卓哉	理科	物質の状態変化
6	山下 修	理科	斜面を下る台車の運動
7	落合英樹	理科	人体 情報の伝達と命令の伝達
8	斉藤 昇	音楽	声でゆたかに表現しようI。
9	三浦浩二	体育	ハレーホール
10	林 亜美	外国語	電話で話したい相手か不在のときにも対応できるようになる。
11	梅田 晃	外国語	レストランでかっこよく食事をオーダーしよう！ 他
12	石淵春菜	保健	かん教育

The Conclusion of the Teachers' Study in Hiranoya J.F.S. 2018-2019

原野谷中学校研究報告書

### 研究主題

他者の考えを理解した上で、自分の気持ちを分かりやすく伝えることができる生徒の育成

### 研究の取組

授業改善を行う上で、まず、授業を何のために行うのかという問いに対する答えを考えることから、全職員で取り組みました。その結果、授業は生徒に「確かな学力」を付けるためのもので、学校教育法第30条第2項にあるように、学力の三要素が①基礎的な知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体的に学習に取り組む態度であると共通理解を図りました。その上で、本校研究主題と学力観との関連性を次ページ□内のように見出し、研究主題に取り組むことが、生徒に確かな学力を育むために価値あ

ることであることを認識しました。

「**他者の考えを理解した上で**」の部分、他者の考えを理解しようとする積極的な姿勢（主体的に学習に向かう態度）や、その考えがどのような意図によって導かれたのかを**思考**したり、また正しい考えなのか等を判断したりする力が働く。「**自分の考えを分かりやすく伝える**」の部分、分かりやすく伝えようとする積極的な姿勢（主体的に学習に向かう態度）や、分かりやすく伝えるための表現力が求められる。そして、理解するにも、表現するにも基本的な知識・技能は欠かすことはできない。

この上で、静岡県教育委員会が示す授業改善の視点を参考に、全職員で授業づくりに励んでいます。特徴としては、①早い段階で「学習の見通し」をもたせ(導入)②何を考えるのかの「問い」を提示し(学習問題・学習課題)③「追究」や④「まとめ」の時間を十分確保すること、また、授業と関連する家庭学習を予習と復習として生徒に課す点です。家庭学習にはeライブラリを含めます。

## 特色ある学力向上への取組

1. 教科ごとの研究仮説、研究方法、評価方法の設定をしています。これにより、教科の特性や教員個々の強みを生かした授業づくりが可能となります。
2. 原野谷中学校区の小中学校は、「小中一貫教育」の市指定研究を受けています。原野谷学園は、これまでも園小中と地域が一体となり、「夢を抱き くりりしく歩む 原野谷っ子」を目指してきました。本校も、小中一貫教育グランドデザインに則った教育活動を展開しています。
3. 各教科で発達段階に応じた原野谷学園ならではの9年間のカリキュラムづくりに着手します。これにより、各教科におけるカリキュラム・マネジメントが可能となり、主体的で対話的で深い学びを促す授業づくりにつながります。
4. 本校英語科教員と小学校高学年の担任が連携し、かけがわスタンダードを基にした外国語の授業を展開することで、効果的な専科教育の在り方について研究を進めます。
5. 地域の人材を活用した、数学塾を開催し、数学の基礎学力の定着に取り組んでいます。



中学校教員による外国語活動の指導

## 目指す姿

校訓「心ゆたかに」 学校教育目標「夢・汗・感動」 重点目標 「かしこく・くりりしく・たくましく」

校訓の「心ゆたかに」は、自己中心的になりがちな心を戒め、人の痛みを感じる思いやりの心、礼節を重んじる心をもつこと。こころざしは高く、社会のために役立とうと、自己を磨き、汗を流すことの尊さを論じている言葉です。この「心ゆたかに」を生徒の姿としてとらえると「夢を抱き、汗を重んじ、感動求め、よりよく生きる生徒」となります。我が校に伝わる古文書には「夢は自己を磨き高める目標である。実現のために努力を惜しまず、感動へとつなげ、夢・汗・感動、この一連の体験の中で自己を見つめる。こうした体験を重ねながら、生き方を高め、将来の夢やこころざしを育む」と書かれており、昔から原野谷の里の子どもたち（原野谷っ子）が目指した姿なのです。「かしこく・くりりしく・たくましく」は、原野谷っ子の目指す姿を飾る言葉です。

◇「かしこい原野谷っ子」は、人のために役に立とうとする志のもと、自ら考え判断して行動する力を目指します。

◇「くりりしい原野谷っ子」は、「いじめはしない させない 許さない」正しい心をもっています。人として当たり前のことが自然にできる力を目指します。

◇「たくましい原野谷っ子」は、心と体の健康づくりと体力づくりを図り、課題に粘り強く取り組む思考力・判断力・表現力を身に付け、たくましく生き抜く力を目指します。「かしこく・くりりしく・たくましく」は互いに連動しています。「かしこい原野谷っ子」を育てるためには、「くりりしい原野谷っ子」、「たくましい原野谷っ子」も同時に目指さなければならないのです。「確かな学力」を身に付けるためには、その土台となる「凜とした心」と「健康な体」が必要です。我が校では、生徒、保護者、教職員が互いに連携し、原野谷学園の皆様の力を借りながら、原野谷っ子の心と体を育て、原野谷っ子の学力向上を目指します。

# 掛川市立北中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり



### School Identity 「冀北精神」

大先輩達のように、目標に向かって自分を高めよう  
北中生として誇りをもって生活しよう

#### 生徒の実態

- 純粋な人間性をもち合わせている
- 明るい対応や笑顔の受け答えができる
- 学習に対する意識が全体的に高い
- ◇一步踏み出すエネルギーに欠ける
- ◇ルールの上は走れるが新たな道を築けない
- ◇壁に当たった時の自己回避能力に欠ける

#### 冀北の目指す生徒の姿

- 挑戦をいとわない生徒
- 新たなルールを自ら切り拓いていける生徒
- 失敗を恐れない生徒
- 現状を打破していこうとする生徒
- 自ら負担をかけている生徒
- 自身でふさわしい行いをしていく生徒

### 学校教育目標

確かな学力 豊かな心 高いところざし

昨年度まで「高いところざし」を重点に教育活動を行い、学習や学校行事に対する主体性や向上心は徐々に高まってきたことが、生徒の姿から見る事ができる。令和元年度は、「豊かな心」に重点を置いて全教育活動を推進していく。そして、それらの中で生徒自身が、自分・人・もの・ことを見つめ、どう生きるべきか自ら考え続ける姿勢を育てたい。これは冀北の目指す生徒の姿であり、ひいては「子どもたちの未来のために」よりよく生きようとするエネルギーとなっていくものである。

#### 校内研修テーマ

『特別の教科道徳』を軸として豊かな心を育てる  
～学び合い 高め合う 授業～

- ①考え議論する道徳を目指した指導法の工夫
- ②生徒一人一人の良さを伸ばし成長を促す評価方法

## 令和元年度の取組

「答えが一つではない課題に対して意見を伝えられるが、そこから考えを深めること」「多様な考えを出す発問をした後、考えを深めるための切り返しの発問をすること」が昨年度の授業研究を終えてから課題として見えてきた。また、本校は市教委から2年間の「特別の教科道徳」の指定研究を受けた。

そこで、新学習指導要領でも大きく掲げられている「道徳科」の研究を軸として、昨年までの小集団学習などの実践を活かしながら、本校の課題解決に取り組んでいきたいと考えた。答えが一つでない道徳的課題を自分自身の問題として捉え、考えを深めることができるように「考え議論する道徳を目指した指導法」と、生徒一人一人の学習状況や道徳性に掛かる成長の過程を見取るために「生徒一人一人の良さを伸ばし成長を促す評価方法」を追究していくことを柱として校内研修テーマに迫っていく。

### 考え議論する道徳を目指した指導法の工夫

- ・発問の仕方や小集団で話し合うテーマ、話し合いを深める手立ての工夫。
- ・道徳的諸価値の共有の仕方やツールの工夫。
- ・自分事として考えたり、視覚的にとらえたりできるようにICTの利用。
- ・外部講師からの提案と実践。

### 生徒一人一人の良さを伸ばし成長を促す評価方法

- ・学年で統一したワークシートや授業構想を利用し、指導観を共有。
- ・ワークシートなどの記録を集積。
- ・生徒の道徳的価値の変化を複数の教員で見取る。
- ・評価の視点や方法、資料について共通認識をもつ。

教師が願う育てたい生徒の姿、育てたい心



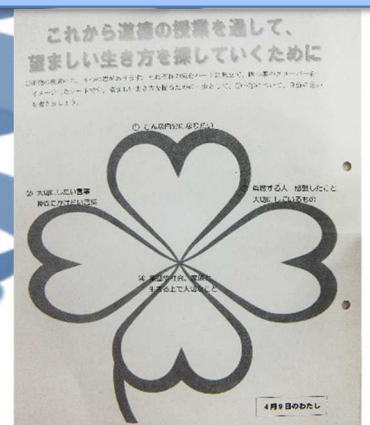
教室掲示で仲間の考えを共有



学年ごとに授業構想の検討



道徳的価値を類型化し、多様なものとの関わりに気づく



全校生徒で道徳を学ぶ意義の再認識



# 掛川市立城東中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

昨年度は「生徒が主体的に追究・表現する授業～一人一人の学びの深まりを目指して～」を研修テーマとし、「自らすすんで考え、意見を言える」「友達の意見を聞き、自分の考えを高められる」生徒の育成を目指して実践を重ねた。その結果、次のような実態が明らかになった。

○小集団活動の形が定着し、生徒は自分の考えをもち、学習班の中で意見を言おうとしていた。

○一人では達成できなかった課題に対して向かっていく姿が多く見られた。

▲友達の意見を聞くことはできるが、それに対して意見をしたり、自分の考えを高めたりすることが難しかった。

▲語彙力や表現力が足りず、伝えたいことが伝わらず、もどかしく思っている様子が見られた。



### 研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」



### 研修の取組

(1) コミュニケーション力育成を目指す単元構想～対話活動の質的向上～

- ① コミュニケーション段階表に基づき各教科・領域で、段階別の目指す子どもの姿をもつ。
- ② ①の姿を意識して、単元デザインをする。
- ③ 対話の必然性がある学習問題の設定

(2) 学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～

- ① 人数は3～4人
- ② 隊形はT字
- ③ ホワイトボード（愛称：まなボード）活用

(3) 授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出～

- ① 板書（・学習課題：白で囲む。・学習問題：青で囲む。・まとめ：赤で囲む。）
- ② 指導案（・4校で統一指導案・「学びの系統性」（小1～中3のつながり）を入れる。）  
・「解決したい問い」、「対話と思考」の場について指導案の中に明記。）



## 特色ある学力向上への取組

### 学習環境づくり～学習の5原則～

授業における「学習の5原則」として、「タイム着席」「あいさつ・返事」「聞く姿勢」「取組」「課題や学習用具準備」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

### 思いっきり学習会

基礎学力の定着を図るため、校内テストの前に思いっきり学習会を実施する。テスト勉強への意欲化を図ると共に、勉強の方法がわからない生徒が勉強に前向きに取り組めるようにする。

### 外国語教育

新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と中学校英語科における一貫教育カリキュラムを実践する。小中学校間のなめらかな接続と適度な段差を設定することを意識し、小学校での学習内容を発展的に生かすようにする。

### 道徳

一貫教育カリキュラムに基づき、「考え議論する道徳」の授業を実践する。地域素材（偉人）を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

### 総合的な学習の時間

一貫教育カリキュラムに基づき、段階表の「つきたい力」と育てたい「コミュニケーション力」を意識しながら、課題解決学習を行う。身近な地域を題材にすることで、城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。

### 家庭学習

「自学ノート」「eライブラリー家庭学習サービス」を導入し、家庭学習への生徒の主体的な取組を奨励する。学級担任は教科担任や保護者と連携を取り合い、多方面から家庭学習をサポートする。



## 目指す姿

学校教育目標 城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども  
重点目標 進んで挑戦する生徒  
仲間と共に高め合う生徒

# 掛川市立大浜中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 子どもの実態

- ・主体性の向上  
→これまでの研修成果により「もっと学びたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒が昨年度に比べてさらに増えた。
- ・考えの深まりを実感  
→仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。
- ・わからないことや疑問を仲間と聴き合う関係が十分でない。



### 研修テーマ

主体的・対話的で深い学びの実現  
～深い学びに導く手立てと見取り～



### 研修の取組

- 1 授業の構造化
  - (1) 解決したい課題や問い
  - (2) 深め、広げる関わり合い
    - ① 学習形態
      - ・コの字型隊形
      - ・小集団
    - ② 考えるための材料
    - ③ わからなさを大切にする教師の見取り
  - (3) 学びの実感につなげる評価や振り返り
- 2 ICTの効果的な活用
  - (1) 学びのUDとしての活用
    - ① わかりやすさ
    - ② 共有しやすさ
    - ③ 時間短縮
- 3 生徒の変容を見取る事後研修
  - (1) 中心授業後、振り返りシートをもとに、抽出生徒の変容を比較する。
  - (2) 生徒の表れをもとに「深い学びに導くための手立て」が有効であったかを協議する。







## 特色ある学力向上への取組

### ①外部人材の活用による研修の活性化

- ・聖心女子大学の益川弘如教授と静岡大学の河崎美保准教授から助言を受け、「深い学び」に焦点を当てた校内研修を推進する。

### ②データに基づく授業診断

- ・授業改善によって生徒の学力が向上したかどうか、授業改善が効果的であったかどうかを検証するために、授業評価アンケートや全国学力学習状況調査、標準学力検査を用いて総合的に分析を行い静岡大学の河崎准教授に授業診断してもらう。

### ③対話を基軸にした授業づくり

- ・コの字型座席、小集団を基本とし、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」という4つの観点から、授業づくりを行う。
- ・生徒のわからなさや疑問を引き出し、そこからさらに学びを深める。

### ④対話を基軸にした学校づくり

- ・学校防災推進協力校の取組や、キャリア教育、仲間づくりや自尊感情を高める支援など、すべての教育活動において「対話」「協働」「学びあい」を実践する。

### ⑤家庭学習におけるICTの活用

- ・インターネットによる家庭学習サービス「eライブラリ」を使って、生徒が家庭で、復習や予想問題に取り組む。

### ⑥IBAおよびかけがわスタンダードの活用

- ・中2で実施するIBAにより実態を把握するとともに、小学校の外国語教育との連携を図りながら授業改善に努める。



## 目指す姿

- ・小集団学習等での他との関わりの中で「わかった」「できた」を実感することで「もっと学びたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
- ・仲間の考えや表現、わからなさや疑問に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えをさらによいものにしようとする生徒。

# 掛川市立大須賀中学校

## 令和元年度 我が校のものがたり

### 生徒の実態

- ・ 問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
- ・ 小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
- ・ 生徒の地域行事への参加率が大変高く、地域とのつながりが強い。
- ・ 学びを深めようとしたり、深く物事を考えようとしたりする習慣の定着が弱い生徒が多い。
- ・ 基礎学力や家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多い。

### 平成 30 年度の研修の成果と課題

- 【成果】・ おおすか型授業スタイル（導入の工夫、学びの工夫）の確立を目指し ICT の活用や小集団活動を取り入れ、生徒同士の関わり合いを増やしたことにより、生徒が追究したい課題に対して取り組む時間の確保ができた。
- 【課題】・ カリキュラムマネジメントに取り組み、教科間のつながりを意識すると、「つなげる」ことが目的になってしまいがちであるため、教科の本質や目指す子どもの姿を見失わないように注意が必要である。

### 研修テーマ

生徒一人一人の学びを保障する『学び合い』の実現を目指して

### 研修の取組

「小集団活動」「共有の学び」「ジャンプの課題」

☆「学びを保障」とは具体的に何か。→ 授業への全員参加

☆『学び合い』の実現」とは具体的に何か。

→ 最終的に実現したいのは「主体的・対話的で深い学び」。

→ 付けたい力は「コミュニケーション力」「教えて、と言える力」「深く学ぶ力」。

《 学びの成立のために 》

＊活動的で、協同的で、表現的な学び

＊「学びの成立条件」＝「真性の学び」＋「聴き合う関係」＋「ジャンプの課題」

- ・ 真性の学び ＝ 「話し合い主義（課題の本質を見失った会話）」を克服した学び
- ・ 聴き合う関係 ＝ 生徒同士だけでなく、教師と生徒も聴き合う。
- ・ 「共有の課題（教科書レベル）」＋「ジャンプの課題（教科書以上）」
- ・ 教師の役割は「聴く・つなぐ・返す」

→ 授業を「プラン」ではなく、「デザイン」していく。

※プラン…授業前に決定。デザイン…授業課程においても授業を構成

## 特色ある学力向上への取組

### ☆おおすか型授業スタイルの確立

生徒が資質・能力を発揮しながら主体的に学ぶことのできる授業づくりを進める。

#### ① ICT機器の活用で導入と学びの工夫



- ・導入に機器を用いることで時間を短縮する。
- ・意見の共有や交換を行いやすい。(コミュニケーションツールとしての活用)
- ・考えの変容を見取りやすい。 ・情報の選択・活用力の向上を図る。  
→ 同時に環境整備や活用法の紹介、授業実践などをOJT研修として扱う。

#### ②小集団活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。

#### ③生徒の主体的な学びによって授業が展開される単元構成を考える。

#### ④基礎学力向上のための家庭学習の充実を図る(予習、復習、e-ライブラリの活用)

### ☆朝学習・コミュニケーション活動

#### ①学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、年間25回の朝学習を行う。

#### ②資質・能力を発揮させるために必要な対人関係スキル(聴く、話す)の基礎技術を身につけさせる。週に一度、朝の会前に行う。



### ☆外国語教育における読解力育成に向けた取組

IBAにおける読解力への課題に対し、新かけがわスタンダードCAN-DOリスト「読むこと」を活用しながら、教科書以外の読み物教材の開発と自分の考えを伝え合う言語活動に取り組む。

### ☆ジャンプの課題設定

「共有の課題(教科書レベル)」+「ジャンプの課題(教科書以上)」を設定し、教師はファシリテーターとしての役割を担う。

## 目指す子どもの姿

追究したい問いに対し、主体的に深く学ぶことができる生徒